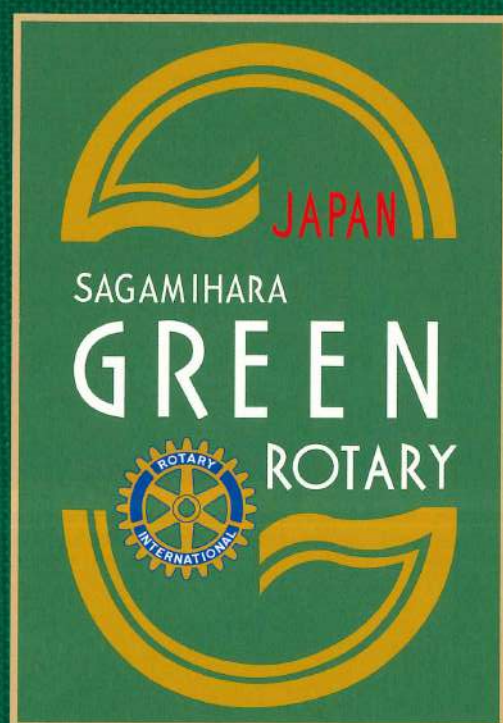


相模原グリーンロータリークラブ

私の職業倫理観

改訂版



相模原グリーンロータリークラブ
2014-15年度 職業奉仕委員会

ロータリーの目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること。
- 第2 職業上の高い倫理基準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものとする。
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理念を实践すること。
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。

付記：「ロータリーの目的」の4つの項目は、等しく重要な意味を持ち、また同時に行動を起こさなければならぬ。（本目的は、「ロータリーの綱領」の日本語訳が2012年11月に改訂されたものである。）

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 一、**真実**かどうか
- 二、**みんなに公平**か
- 三、**行為と友情を深める**か
- 四、**みんなのためになる**かどうか

「私の職業倫理観」冊子発行に寄せて

'14～'15年度 相模原グリーンロータリークラブ職業奉仕委員会

委員長：内田茂一 副委員長：田中紘昭

委員：佐藤真一、浮田 實、井上誠士、高橋三叔、

霧生和雄、犬飼久恵、高瀬健一

ロータリークラブは、ボランティア団体でも寄付団体でもなく、社交クラブでもありません。職業人が自分の職業の代表として集まり、高い倫理観を持ち良質の仕事を提供することで地域社会、お客様、社員、隣人に奉仕を实践する人々の団体です。ロータリーの職業奉仕は職業人としての倫理向上を求めてこそ、目的が果たせることだと考えます。

我説を述べてロータリーの高邁な理想を汚すのは、本意ではありません。真摯に「四つのテスト」に照らして行動することが肝要かと思えます。「四つのテスト」には幾つかの日本語訳と解釈があると聞きます。次に私の考えに一番フィットするものを記します。

「Four-way test 四つのテスト」

「事業を繁栄に導くための四通りの基準」ならば、当然 Four-way tests と複数形に成るはずですが、これが単数形であるのは、事業を繁栄に導くためには、四通りの基準を一つずつクリアすれば良いのではなく、四つ纏めたものを一つの基準として、その総てをクリアしなければ成らないことを意味します。

ロータリーの綱領が Object of Rotary と単数形であり、四つの項目が渾然一体となって、一つの綱領を形作っているのと同様です。

「Is it the truth? 真実かどうか」

「嘘偽りがないかどうか」という意味です。商取引において、商品の品質、納期、契約条件、などに嘘偽りがないかどうかは、非常に大切な条件です。

真実と言うのは、「80%の真実」と言う言葉が示すように、人間の心を通じたアナログ的な判定であるのに対して、事実とはその事実があったのか、無かったのか二者択一を迫るデジタル的な判定ですから、ここでは「事実」と言う言葉を用いるべきでしょう。

「Is it fair to all concerned? 皆に公平か」

fair と all concerned とする言葉の翻訳に問題があります。fair は公平ではなく公正と訳すべきでしょう。公平とは平等分配を意味するので、たとえ贈収賄で得た unfair 不正なお金でも平等に分ければ、それでよいということになります。all concerned は all だけが訳されており、肝心の concerned が省略されています。冒頭に述べたように四つのテストは「商取引」の基準として定めた文章ですから、この concerned (関わりのある人、関係する人) は「取引先」のことを意味するのは明白です。従ってこのフレーズは「すべての取引先に対して公正かどうか」ということを意味します。

「Will it build goodwill and better friendship? 好意と友情を深めるか」

goodwill は単なる好意とか善意を表す言葉ではなく、商売上の信用とか評判を表すと共に、店の暖簾や取引先を表します。すなわち、その商取引が店の信用を高めると同時に、より良い人間関係を築き上げて、取引先を増やすかどうかを問うものです。

「Will it be beneficial to all concerned? みんなのためになるかどうか」

Benefit は「儲け」そのものを表す言葉です。商取引において適正な利潤を追求することは当然な事であり、決して恥ずべきことではありません。

ただし、売り手だけが儲かった、また買い手だけが儲かったのでは公正な取引とは言えません。その商取引によって、すべての取引先が適正な利潤を得るかどうか問題なのです。

(出典：ロータリーの源流 RI2680 地区 田中 毅 PDG)

職業奉仕

'06～'07年度2780地区職業奉仕委員長 宮崎泰光

職業奉仕という言葉は、社会では一般的には使われておりません。ロータリークラブに入って初めて聞いた人が殆どではないでしょうか。しかし、この職業奉仕こそロータリーの金看板であり、ロータリーのロータリーたる所以は職業奉仕にありと言われております。ところが最近ロータリーの職業奉仕に対する熱意が高くないと言われ、それがロータリーの発展を妨げていると言われております。1905年相互扶助の親睦団体としてロータリーは創立されました。しかし一年後にはそれだけでは社会的な存在意義がないと言うことに気がつき、定款に社会への奉仕が追加されました。相互扶助の観念は一般的奉仕の観念に世を譲ったと表現されています。その後、ロータリーは倫理的商取引の重要性に注目多大の努力を重ねて職業奉仕の理論を発展させました。

職業奉仕という言葉は、vocational serviceの訳語です。ロータリーは1927年のオステンドの国際大会以降「商取引の方法」に替わって職業奉仕という言葉を用語としました。vocationの語源はvoiceです。このvoiceと言いますのは、実は「神の声」なのです。したがってvocationと言いますのは神様の思し召しであって、おまえはこの仕事をして人の為に役に立ちなさいと言う神様からの命令なのです。これvocational serviceの意味なのです。これについては、言葉の宗教色が気になることでしょう。これについては「ロータリーは決して宗教でもなければ、その代用物でもない、それは古くから存在する一道德観念の現代生活における、ことに実業職業生活

における実践に他ならないのである。」と言うポール・ハリスの言葉が参考になることでしょう。

ところで、そのような倫理的職業活動では厳しい競争社会で生き延びられるのかと言われることがあります。しかし、1929年からのアメリカの大恐慌において、アメリカのロータリアンは一人も倒産していませんと言われております。それは、1910年頃からロータリークラブの例会において企業経営上の色々な発想を交換しながら職業奉仕における原理を体得し、それを自らの企業経営に実践してきた職業奉仕実践の効果であると言われております。

アーサー・フレデリック・シェルドンが「最もよく奉仕する者は、最も多く報いられる」を提唱した背景は、当時の経済不況下で人心が荒廃し詐欺まがいの商法がまかり通り事業経営の栄枯盛衰の厳しい状況の中で、着実に繁栄している商店や事業があることに着目し、その共通点はどのお客に対しても公平に良品質な品物、アフターサービス、お客への親切な説明・対応が実践されていることを発見したのです。シェルドンはお客の好意・善意を得ることこそが事業繁栄の基になっている、しかもそれは人間の自然原理に合致していると喝破したのです。ロータリアンは、その職業において高い倫理性を要求されており、自己の利益のみの追求に専念することなくロータリアンでない人々とも、それぞれの職業を尊重しながら、社会に貢献し、社会の発展に寄与することが要請されています。

職業宣言

Declaration of Rotarians in Businesses and Professions

奉仕の機会としてのあらゆる職業において、高度の道徳的水準を推進し、その価値を認め、職業を社会のニーズに役立てるため、1989年規定審議会は次の職業宣言採択した。

事業または専門職務に携わるロータリアンとして、私は以下の要請に応えんとするものである。

- 1) 職業は奉仕の一つの機会なりと心に銘せよ。
- 2) 職業の倫理的規範、国の法律、地域社会の道徳基準に対し、名実ともに忠実であれ。
- 3) 職業の品位を保ち、自ら選んだ職業において、最高度の倫理的基準を推進すべく全力を尽くせ。
- 4) 雇主、従業員、同僚、同業者、顧客、公衆、その他事業または専門職務上関係をもつすべての人々に対し、ひとしく公正なるべし。
- 5) 社会に有用なすべての業務に対し、当然それに伴う名誉と敬意を表すべきことを知れ。
- 6) 自己の職業上の手腕を捧げて、青少年に機会を開き、他人からの、格別の要請にも応え、地域社会の生活の質を高めよ。
- 7) 広告に際し、また、自己の事業または専門職務に関して、これを世に問うにあたっては、正直専一なるべし。
- 8) 事業または専門職務上の関係において、普通には得られない便宜ないし特典を、同僚ロータリアンに求めず、また与うることなかれ。

職業奉仕に関する声明

Statement on Vocational Service

1987-88年RI理事会は、ロータリーの職業奉仕について、相手とは単に商取引の相手のみでなく、すべての人という意味であり、またクラブは会員個人の活動を引き出すような事例を実施すること、との声明を発表した。その全文は、次の通りである。

職業奉仕とは、あらゆる職業に携わる中で、奉仕の理想を生かしていくことをロータリーが育成、支援する方法である。職業奉仕の理想に本来込められているものは次のものである。

- 1) あらゆる職業において最も高度な道徳的水準を守り推進すること。その中には、雇主、従業員、同僚への誠実、忠実さ、また、この人達や同業者、一般の人々、職業上の知己すべてへの公正な取り扱いも含まれる；
- 2) 自己の職業またはロータリアンの携わる職業のみならず、あらゆる有用な職業の社会に対する価値を認めること；
- 3) 自己の職業上の手腕を社会の問題やニーズに役立てること。

職業奉仕は、ロータリー・クラブとクラブ会員両方の責務である。

クラブの役割は、たびたび職業奉仕を実践してみせることによって、また、クラブ自身の行動に職業奉仕を生かすことによって、模範となる事例を示すことによって、さらに、クラブ会員が自己の職業上の手腕を発揮できるようなプロジェクトを開発することによって、目標を実践、奨励することである。

クラブ会員の役割は、ロータリーの原則に沿って、自らと自分の職業を律し、併せてクラブが開発したプロジェクトに応えることである。

私の職業倫理観

目次

ロータリーの目的／四つのテスト	
「私の職業倫理観」冊子発行に寄せて	
職業奉仕	
職業宣言／職業奉仕に関する声明	
私の職業倫理観	
01. 足立 正	1
02. 井口 学	1
03. 伊藤信吾	2
04. 犬飼久恵	2
05. 井上栄次	3
06. 井上誠士	4
07. 今井 睦	4
08. 浮田 實	4
09. 内田茂一	5
10. 大澤重人	6
11. 大貫弘子	6
12. 小川忠久	7
13. 小野太郎	7
14. 尾畑仁貴	8
15. 恩田 徹	8
16. 柏木秀信	9
17. 門倉和博	9
18. 金子英行	10
19. 河田明成	10
20. 霧生和雄	11
21. 小林信二郎	11
22. 齊藤紀美孝	12
23. 佐藤眞一	12
24. 佐藤眞吾	13
25. 佐藤寅蔵	13
26. 澁谷武男	14
27. 篠崎雅彦	15
28. 神座磯男	16
29. 関根正司	16
30. 高橋正之	17
31. 高橋三叔	17
32. 田中絃昭	18
33. 中村昌治	19
34. 西迫 真	20
35. 野田英樹	21
36. 長谷川太一	22
37. 長谷川正夫	22
38. 原 正幸	23
39. 坂野孝信	24
40. 福山 茂	24
41. 水谷里枝子	25
42. 宮崎泰光	26
43. 村田 崇	26
44. 守屋 護	27
45. 矢越孝裕	28
46. 山本正司	28
47. 李 爽	29
□物故会員	
48. 大野隆雄	30
49. 福本俊雄	30
□退会会員	
50. 浅沼菜穂美	32
51. 石井中和	32
52. 奥村光弘	32
53. 小橋雄樹	33
54. 鈴木千夏子	34
55. 関永光彦	34
56. 饒田博明	35
57. 平井良和	36
58. 安田正年	36
59. 谷田貝勝次	37
「ロータリー知っ得情報」より抜粋	38
あとがき	42

私の職業倫理観

01

足立 正

行政書士はその法第1条において「その業務の適正を図ることにより、行政に関する手続の円滑な実施に寄与し、あわせて、国民の利便に資することを目的とする。」と定められ、また、これを受けて次のように倫理綱領が制定されています。

「行政書士は、国民と行政とのきずなとして、国民の生活向上と社会の繁栄進歩に貢献することを使命とする。

1. 行政書士は、使命に徹し、名誉を守り、国民の信頼に応える。
2. 行政書士は、国民の権利を擁護するとともに義務の履行に寄与する。
3. 行政書士は、法令会則を守り、業務に精通し、公正誠実に職務を行う。
4. 行政書士は、人格を磨き、良識と教養の陶冶を心がける。
5. 行政書士は、相互の融和をはかり、信義に反してはならない。」

これを読む限り、その職業はどういうものかという「国民と行政のきずな」として「行政に関する手続の円滑な実施」と「国民の利便」に資する、ということ、わかり易く言うと、行政に関する手続きについて県庁や市役所等の役所と依頼人や相談者のそれぞれの役に立つこと、ということになるのでしょうか。

実際、行政と依頼人の板挟みに遇って苦悩し、面倒になって、もうお金払うから誰か代りにやってくれないかな、あっ、そういえばその誰かが自分だったな、と思ひ直すような事がしばしばあります。

そういうとき、また、仕事への取組み姿勢や、職業倫理というものについて考えるとき、「ライトスタッフ」という1980年代のハリウッド映画を思い出します。NASAのマーキュリー計画にまつわる宇宙飛行士達を描いたノンフィクション小説に基づく感動ドラマで、DVDではほぼ毎年のように観るくらい好きな映画です。

そして自分のライトスタッフは果たして何だろうか、

即ち「己にしかない正しい資質」とは何なのかを考えます。しかし、その道は深くて遠く、険しく、未だその入口付近を彷徨っているだけの様な気がしてならず、自分の到らなさを思い知らされ茫然とします。

しかし、今はただ、士業に限らず「資格」を職業とする者は、須らくそこに求められる正しい資質とふさわしい人格を身につけるべく、常に問い続け、求め続け、日々の研鑽に余念無き姿こそ望ましいと思ひ切り、前を向きます。

私の職業倫理観

02

井口 学

私の職業は司法書士です。もともと司法書士を目指していた訳ではなく、たまたま大学4年生のころにアルバイトで司法書士事務所を手伝い、安易にそのまま就職したことから、職業として司法書士を選択せざるを得なくなりました。

アルバイト就職後、橋本駅前司法書士・土地家屋調査士事務所、神奈川県庁前司法書士事務所、横浜駅西口司法書士事務所を経て、平成6年に相模原市で司法書士・土地家屋調査士事務所を開業しました(土地家屋調査士はその後に廃業し、代わりにマンション管理士を登録しています)。

さて、私の職業である司法書士の倫理ですが、実は、平成20年に日本司法書士会連合会が「司法書士の倫理」という形で明文化しています。この司法書士の倫理規定には、信義誠実に業務を行う、人格の陶冶を図り教養を高める、品位を保持する、法令実務に精通する、自由独立を保持する、秘密を保持する等々、合計92条にわたる様々な義務が定められています。この倫理規定に反する行為をすれば、所属する司法書士会から注意勧告処分を、場合によっては法務局から懲戒処分を受ける可能性がありますので、個人的な倫理観をもって業務を行うことができません。

ちなみに、司法書士は、5年ごとに倫理研修を受講することが義務付けられています。この倫理研修

は、例えば、かつて登記の仕事をした人を相手方とする訴訟の依頼を引き受けられるか、遺産分割協議の調整を行ったが決裂した場合に一部の共同相続人からの遺産分割調停申立書作成の依頼を引き受けられるかなど、具体的な事例を想定して行われます。

最近の司法書士業界は、成年後見業務などで多額の財産を預かることも多いためか、特に、倫理・倫理の合唱です。個人的にはもう少し自由でも良いのでは、と思うこともありますが、司法書士としての職業倫理を意識し、この先も司法書士の仕事を続けていきたいと考えています。

03

私の職業倫理観

伊藤信吾

弁護士の仕事は、もともと「社会正義の実現」をモットーとしており、高い倫理観が要求されています。私たち弁護士は、学生時代の青臭い正義感を心の奥底に持ち続けているものです。

もっとも、私たちの倫理観に基づく使命は、悪者を捜し出して糾弾することではありません。勧善懲悪で済むほど世の中は単純なものではありません。

倫理観が低い感覚の持ち主だからと言って、皆が犯罪に手を染めるようなことはありません。問題は犯罪にならないような、違法とは言えない部分で、いかに「社会正義」を実現していくのかという事が問題です。

世の中に100%正しいことや、100%間違っていることはそうそうありません。民事上のトラブルは、双方がそれなりに少しずつ間違っただけの結果、ボタンがどんどん掛け違って行くように大きなトラブルとなっているものがほとんどです。私たちは、感情的にならずに何が「社会正義か」を考えてひとつずつ問題をほぐしていかなければなりません。それは単純な倫理観というものではなく、世の中のバランスを考えた「紛争を見る目」を養う事が重要です。それは日々の修練であり、その修練を実践することが、我々の倫理観だと考えます。

また、刑事事件などでは、「弁護士は悪い奴の弁護をするのか」という問いかけがされることがあります。悪い奴の弁護をするのは倫理観がないかのように言われることもあります。しかしながら、やはり、それも一面的です。私たちが刑事事件を処理するのは、単に被疑者のみのためで行うわけではありません。身内が逮捕されて憔悴しきる家族の皆さんを励まして、今後の見通しを説明し、一緒に示談交渉をしたりする活動は、むしろ家族の方々のために行っているものです。示談交渉で被害者から辛辣な事を言われることも少なくありません。そういった辛さを被疑者の家族と共有する役割が、我々の倫理観だと感じています。

もちろん、ストレスは溜まりっぱなしですが、私は、自分なりの「倫理観」を持って行動できる弁護士の仕事が好きです。

04

私の職業倫理観

犬飼久恵

社会保険労務士になるには、国家試験に合格しなければなりません。合格率は平均で7~8%です。もちろんこれより低い年もありますが、私が合格した年はここ数年の中では特に高く10%でした。正直、運も味方につけたと思っています。また、合格するためには1000時間程の勉強時間が必要になります。社会保険労務士を目指して勉強している人達にとって、合格者は雲の上の人に感じるらしいのですが、士業が溢れているこの時代に、社会保険労務士として食べていける人は、ほんの一握りです。開業しても顧問先が少ないためアルバイトをしている人もいます。また、開業したけれど事務所経営が厳しく企業に再就職する人もいます。私自身は、欲張りな性格から、妻として、母として、嫁として、1人の職業人として充実した人生をおくるために「開業」という選択肢を選び、小さい時から思い描いていた法律に携わる仕事の中から「社会保険労務士」を選択しました。自分の意思で選んだこの仕事に誇りをもっています。

今後も、専門知識を必要とする職業人として新しい知識の習得に励み、魅力ある人であり続けるために自己研鑽に励み、周りの人たちへ愛情をもって接することを誓います。

日々の業務においては、法令順守という言葉が完全に欠落してしまっている社長に向けてのサービスと、従業員に対して愛情のない社長、逆に愛情ばかりで物質的な還元ができていない社長へのサービスは全く違うものになります。しかし、事務所方針でもある「社会の繁栄のために、会社に利益をもたらす労務環境を構築し、自分そして周りの人たちが笑顔で幸せな生活をおくれるためのお手伝いをいたします。」を忠実に行うことが、私の職業人としての倫理観だと思っています。会社の繁栄を望まない社長はいません。様々な事を決意し実行するのは社長ですが、信頼を得ながらその背中を近くで支えてあげることが、私たち労務分野の専門家である社会保険労務士の使命です。

私の職業倫理観

05

井上栄次

私が、税理士という職業を志したのは大学3年の時、会計学のゼミナールを選択し新田忠誓先生という、かけがえのない恩師に出会った事がきっかけでした。それまでは自分の職業について特定の目標があったわけではなく、経済学部でしたので、漫然と銀行か証券会社か商社に就職しようと考えておりました。ゼミナールで会計学、簿記を勉強するにつけ自分としての方向性が定まりました。

大学を卒業し、会計事務所で働きながら、24才の時から税理士試験を受験しました。途中で恋愛を含め受験を阻害する多くの事情がありましたが、31才の時何とか税理士試験に合格することができました。町田での勤務税理士時代を経て、独立したのは平成6年7月1日、私が34才の時、クライアントは5件でした。

当時、クライアント5件というのは、とても独立で

きるような件数ではありませんでした、1ヶ月の仕事が1週間で終わってしまい、後はクライアントのための契約書作成や表計算のシステム作り等に費やしていました。生活はとても苦しかったです。

1年2年と経るうちに1件2件とクライアントが増えて、12年目を向かえた現在では約270社になり、スタッフも10名を抱える事務所に成長することができました。

私にとっての職業倫理観は、クライアントのニーズに合ったサービスを行うことです。クライアントには様々な要望があります。会社の成長に資するコンサルを求めるのは当然として、無理のない事業承継、何十年も先を考えたの相続対策(グラフのカーブと同じで最初の小さな違いが時間が経てば経つほど大きな違いになるものです)、私の事務所の職員には「大変だと思うがクライアントのニーズに合わせてカメレオンのように変化してくれ」と言っています。TKCの事務所のように、クライアントを全部TKC色に染めていけば、自らはあまり変わる必用が無いのですから楽に決まっています。ただ私の事務所では、クライアントの使用している会計システムや経理処理の方法に事務所の方が合わせるように指導しています。

私のクライアントの95%は、そのような中でクライアントや知人から紹介されたものです。クライアントや知人が紹介しても顔を潰すようなことのない税理士でありたいと常日頃考えています。クライアントの長い意味での最大利益を常日頃意識していく事が、それにつながるのだと考えています。ロータリーには平成12年だったと思うのですが、伊藤会員の紹介で入会いたしました。JCを卒業した後で、私としては多くの新しい仲間と出会うことができ感謝にたえません。税務のプロとしての職業倫理観を持ち続けて今後も努力していきたいと思っています。

私の職業倫理観

06

井上 誠士

人として守るべき道。

困った事を相談できる企業を目指しております。住宅設備機器販売という仕事は、人が社会で暮らすための様々な商品を取り扱い販売しております。商品アイテムが幅広く有るため、お客様の要望を確実に判断し提案することで、建設工事に係るお客様を通じて、人の暮らしを楽しくする『環境を考えたより良い商品を人のため地球のために。』をモットーに、地域と共に成長してまいります。

また、平成26年7月『ライフ株式会社』を設立、上下水道工事・リフォーム・水周りのメンテナンスや設計施工、困っている人に手を差し伸べられる企業を設立スタートいたしました。

歯科を含め医療倫理そのものが職業奉仕の理念と同じだと思うのです。日本は国民皆保険という制度があり国民が平等に診療を受けられます。治療内容によって点数が決められていて、1点が10円で医療機関に支払われる仕組みになっています。裏を返せば患者さんへの説明や技術のレベルは評価されません。今年の10月からすべての医療機関で診療内容がわかる処置別記載された領収書の発行が義務化されました。これは患者さんの医療に関しての関心を持たせることと不正請求の防止が目的と考えられます。

最近よく言われるインフォームドコンセントですが、患者さんへの説明と了承にいかにか時間をかけ信頼を得るかである。今までに20人ほどの先生が当院にお勤めになり開業されましたが、患者さんに対して優しく接し、よく話を聞いてあげて恐怖心を和らげ治療も丁寧かつ正確だった先生がやはり成功しています。

利潤を追求せず患者(顧客)の立場に立って倫理観を持って仕事をすれば、仕事に対して誇りを持って充実感を得ることができ、如いては収入も増えるということなのでしょう。

私の職業倫理観

07

今井 睦

相模原市で開業して来年で25周年になります。私が歯科医師になろうと思ったのは高2の時で幼い時から漠然とサラリーマンは合わないなと感じていました。模型作りなどが好きで手先が器用だと言われていたこともあり、今の職業選択は正解だったと思う。(ちなみに歯科医師記念日は私の誕生日と同じ5月2日である。)在学当時は相模原市では人口急増で歯科医師が不足しており開業医に誘致していたほどだったので、開業当時は今の2倍の患者さんを診ていました。そのハードな仕事も多額の借金の返済と家族を養うという責任感から頑張れたのだと思います。その無理が今になって現れてきたのかもしれない。

以前に相模原R.C.の黒河内先生(当時地区職業奉仕委員長)が2度、当クラブで職業奉仕についての卓話をされました。その時に、唯一お金を使わないで逆に増える奉仕が職業奉仕だと強調されました。

私の職業倫理観

08

浮田 實

私の職業は医師です。昔の日本では、医師は商売往来の中には含まれていなかったのです。人間は各個人が持っている免疫の働きなどによって健康を維持し寿命を全うするするわけですが、病気や事故など健康を脅かす場合には健康を取り除くお手伝いをするのが仕事で、本来利益を求めべきものではないのです。したがって昔の医師はお金のない患者からは金銭の要求はせず、裕福な患者からその分を請求していたのです。しかし現代では医療はサービスのなかに含まれるようになり事業税まで払うようになり変化してきました。

医療も著しく進歩し高額な設備が必要となってきたため、資金の調達に株式会社形式にすることが必要になるかもしれないという考えの人も現れてきまし

た。

私は大学卒業以来血液学の研究に一生を捧げてきました。研究室を卒業したあとも帝京大学薬学部の講師、相模原医師会立看護学院校長など教育関係の仕事に携わってきましたが、何れもお金には縁の無い仕事ばかりでした。利益を追求しない職業がロータリーで言う職業奉仕に当てはまるかどうか解かりませんが、自分ではこれも職業奉仕と自負しています。

9

私の職業倫理観

内田茂一

この仕事に就いたのは、1964年23歳の時でした。東京オリンピックが開催され、日本経済が将来に成長の過程に羽ばたこうという時です。当時の日本はまだまだ貧しく、当方も例外では有りませんでした。半年でサラリーマンを辞め、父の始めた仕事に就きました。

社員第一号です。それほど大きな夢や理想があったわけでは有りません、貧しかったから豊かになりたい、ただその思いでいっぱいでした。父とケンカしながらも頑張りました。

1979年代表取締役になりました。社員総数は10名足らず、39歳の時です。経済的には多少ゆとりが出来ましたが、家族と、社員が少しでも豊かになり、そして会社を成長させる！それだけで、まだ社会の為という自覚はありませんでした。

1991年バブルの崩壊により大きな波を被り、年間売り上げが、前年度比40%もダウンして、単月では60%も下回った事もありました。前の水準に戻るのに3年を要し、社員を40名かかえて経営は大変苦しく、運転資金があと2ヶ月で底を着くなんていう綱渡りの時には、リストラにより社員を減らさなければという悪夢で、寝られない日々が続きました、幸い人は減らさずに乗り切りました。その時心の底では、会社の存続の為には苦汁の選択をするのが、社長の責任であると決意していました。

1996年事業承継を視野に入れた会社改造計画をスタートしました。苦勞を共にしてきたベテラン社員と、次世代の若手社員の為にも成長力のある会社にして、次の時代に通用する会社にするという事です。デフレの時代に成長路線を執ることは、生易しいことではありません。人の育成と、生産性の向上をテーマに大改革を行いました。当然のことですがコンセンサス作りには細心の注意を払い、最大のエネルギーを注入しました。結論から言うと今のところ成功しています。生産システムを全面的に再構築して、リスクを背負って積極的に最先端の設備を導入して上手に活用しています。経営も社員の中なら育てて譲りました、2年前のことです。まだ毎朝報告と相談に来ますがもう暫らくの事でしょう。その間社員の増加は40%に抑えられ平均年齢も約32～33歳に若返り、年間の売上高は2.4倍になりました。その他の経営指標も大幅に改善しました。然し理解を得られず協働できずに6名が社を去りました。悩んで社長として決断した事ですが、今も心が痛みます。

1998年大沢会員の紹介でグリーンロータリークラブへ入会しました。ロータリーで奉仕と言う概念に身近に接することが出来ました。社会の恩恵を受けて、此処まで来られたと言う感謝の気持ちは沢山あります。会社の経営も自分なりに倫理観と責任を持って、あたって来られたと自負しています。

時系列的に、半生の幾つかの時点での倫理観を振り返ってみました。職業奉仕委員長を担当したのを機に、プロフェッショナル(まだ隠居では在りません)としての倫理観を磨き、仮に前と同じ状況に出遇ったら、よりよい判断が出来るように努めてゆきます。

■会社紹介

ウチダグループ〔(株)ウチダ、(株)イントロ、(株)ユーエストの3社〕は、人の感性を生かした匠の技と、NC技術の融合を図りフレキシブルな生産システムを確立して、高度な多品種変量生産を実現しています。

○企業コンセプト：S・S・Q・C・D みんなの幸せのために

1. S(サービス)・お客様の要望に全力で応える

お客様の立場で考え、無理、出来ない、と言わず全力でチャレンジする

2. S(スピード)・直ぐに対応して、問題を先送りしない

3. Q(クオリティー)・トレーサビリティシステムを確立して、失敗を生かし品質を向上する

不適合率0.004%以下(不適合品が100,000個中4個以下を達成)

4. C(コスト)・コストの低減は時代の要請と銘ずる

年間10%の生産性を向上する

5. D(デリバリ)・納期を厳守する

リードタイムを1/2に短縮する

○営業品目：金属製品(精密シートメタル部品)の製造

○資本金：7,180万円(3社合計)

○社員数：71名(19年3月現在)

私の職業倫理観

10

大澤重人

人の生業として、金銭を得て生計を立ててゆくために、仕事(職業)をしてゆく。それは、与えられるものでなく、自らが開拓し勝ち取るものと一般的には考えやすい。各人それぞれが、この社会で自分のために活動するのであって、餌を与えられて生きてゆくのではない自由が与えられていることで、満足しているかのように見える。だが、実際に、この社会で仕事をして生きてゆくには、結局、自分だけの力では、生きてゆけないことに気づく。まず、取引先、従業員への感謝なくして事業が継続しない。そして、次には、配偶者や家族の協力ないし存在のおかげもあることに気づく。更には、この社会の人々のおかげであることを悟り、そして遂には、自分は、自らの手だけで頑張っただけで喰ってきたと思ったら大間違い、生かされていることに気づくようになる。

私の職業は、税理士という専門職だが、それを通じてこの社会で生かされている存在である。このことをトコトン自覚して依頼者に向かうことが、私の職業倫理観の全てである。決して対峙するのではなく、一緒に向かうべき自然の流れに沿う方向へと導く役割であることを自覚する。これは、私の日々の実践課題でもある。

私の職業倫理観

11

大貫弘子

私の職業は化粧品販売業です。ですが、単に化粧品を販売するだけではなく、ビューティアドバイザーという名のもとに本来一人一人が持っている女性の美しさを引き出すためのお手伝いをしているというものです。

その為に商品販売のみならず、スキンケアやメイクのレッスン、エステなども行っています。商品を購入すれば綺麗になるかと言えばノーです。使ってこそ綺麗になります。生活環境、肌の状態、使用感の好み、香り、金額など様々な要望の中からきちんと使ってもらえるものを紹介していく。そして使用後の確認です。きちんと使えているか、満足しているか、効果を感じているか、等々です。これらのことは増え続けるWebや通販によるお手軽なショッピング方法と比較してもリアルな体験にはかなわないことだと思います。

私はお客様一人一人と向き合い、そして最後まで責任を持つということを私自身の職業倫理として考えています。

また、お客様の喜びの声はいつも励みになりますが、一方で忘れてはならないのは、消費者、個店、地域社会の三つの全ての幸せだと思います。

人はそれぞれの価値観があるため、お化粧品やお手入れには構わない、という方もいますが、でもそんな方が少しのメイクやアドバイスで綺麗になり、喜んでもらえたら非常に嬉しいことです。綺麗になることで自信が出たり、褒められたりすることで、明るく元気になります。女性がいつまでも若々しく生き生きとしているということは社会にとっても重要なことです。一人でも多くの方に喜んでもらえるようにこれからも真摯に日々取り組んで行きたいと思っています。

12

私の職業倫理観

小川忠久

私は現在、我が家の資産運用・管理を業としていますが、他に二つの比較的新しい会社の監査役を引き受けています。その前49歳までの27年間に及ぶ銀行員時代は、とにかく与えられた業務目標を如何に達成するかというのが最大の使命で、日々を大変忙しく送っていました。皆様ご承知のように、バブル期を経てその後の混乱時代、金融界には数多くの不祥事が噴出し、その結果後ろ向きの仕事が増え、銀行も全く元気が無くなってしまいました。私が辞めたのは銀行がまだそんなに酷くはない時代でしたが、それでも全員が無我夢中といった状態でも社会がどうのといっている余裕は無かったように思います。しかし思い起こしますと、時に手段を選ばずといったことをする同僚もいるなか、私個人的には何もそこまでといった感じを強く持っていましたし、程ほどにしよう、余り極端にならぬようにしようと自分を戒めていたように思います。分かりやすい言葉で言うと余り品の無いことはしたくないといった感じでしょうか。その考えは今でも同じで、私が物事を考え、何か行動を起こすときは大体そのようにしています。勿論、私が小さい時から親に教えられたり、また書物を読んだりして自然に身についた規範、何が正しくてまた何をやってはいけない等といった事柄を私自身大変大事にしています。職業倫理といっても以上申し上げたように、私がかもともと身につけたものを大事にしながら実践しているだけです。職業のみに限定されたものではなく余暇の活用、生活一般まで含めて同じ規範、倫理観といって良いのでしょうか、に基づいて行動しているように思います。最近では家庭も会社も一般社会もさまざまな事件が頻発し混乱状態がありますが、我々も一つ芯の通った考えと行動をとりたいものです。まあ最近では企業の社会的責任についても多々論じられているようですから、随分と良い方向には進んでいるものと思います。最後に以前にもご披露しましたが、私が監査役を勤めるベンチャーキャピタル会社でよく言われる「三方よし」、即ち近江商人

の商売の基本であった「売り手よし、買い手よし、世間よし」を改めてご紹介しておきましょう。昔から長続きする商売は同じ考え方を持っていたのですね。

13

私の職業倫理観

小野太郎

弊社では輸入車・国産車の新車及び中古車の販売と整備・板金修理、損害保険代理店業務、レンタカー業務を行っております。良質な自動車の販売は勿論ですが、整備・修理の業務において他社との差別化を意識して業務を遂行いたしております。

自動車は命を載せて走る乗り物です。商売の原点はおお客様の要望を実現することだと思いますが、安全という部分では妥協をすることはできません。となく自家用車には手をかけても営業車には最低限でといったニーズや、安ければそれでいいといった声もありますが、すべて鵜呑みで対応しては大変なことになってしまいます。顧客のニーズが安価な整備であったとしても事故が起きてしまえば元も子もありません。

極端なスポーツカーを除いて、安全は価格に比例するのは今も昔も変わりません。所有する喜びもありますが、性能に比例して止まる能力やぶつかったときの乗員へのダメージも軽減されるよう配慮されています。又、ストレスを感じさせない快適性も冷静な判断、落ち着いて運転するという安全性の一部です。芸能人やスポーツ選手が高級車を購入するのはステータスだけではなく普通の方よりも自分の体を守る必要があるからで、経営者の皆様にも同じことが言えるのではないかと私は思います。

注意して運転していても事故は起きます。もちろん技量や注意力によって確率は変わりますが、相手のあることなので絶対はありません。事故や故障は困ったことですが、高級車・営業車を問わずその煩わしさを極力予防・軽減する為に、プロの目でほかの方よりも優位になれるよう提言・実践させていただくことが弊社の存在意義だと考えて居ります。安全・安心・上質を提供し社会貢献できるよう努力いたします。

■会社案内：有限会社東京小野屋(平成16年2月創業)
 業務内容：輸入車の販売・買取・整備・修理、国産車の販売・買取・整備・修理、あいおいニッセイ同和損害保険(株)代理店、有償自動車貸渡業(レンタカー)
 交通事故の処理・修理ご相談ください。お役にたちます！

14

私の職業倫理観

尾畑仁貴

- (1) 医の倫理に基づき、患者さま中心の医療を行う。
- (2) 常に患者様の立場に立って、安全かつ最善の医療を行う。
- (3) 医学、医療は日進月歩であり、医療の新しい知識、技能を研鑽追及する。
- (4) 地域の医療連携に参加し、医療のネットワークを推進する。

15

私の職業倫理観

恩田 徹

新宿に戦後間もなくから始めた、創業70年の老舗店「どん底」と云う店が有ります。

当時、私は大学生の頃から良く仲間と通っていました。店の常連客は、左翼の運動家・芸術家・役者の卵など、色々の人種等が集まり議論に花を咲かせて、にぎやかな店でした。

ある日私はいつもの様にその店で仲間と飲んでいたら、隣席の年配のお客から私にこう話しかけてこられました。「ぼく友達が多くていいネ。君だったら自分の店を持って充分出来るのではないかな、実は今私のところにか所、空き店舗があるので考えてみないか」と声をかけられました。

私はその話を直ぐにとんでもないです、私はまだ学生の身ですまたそのような資金も有りませんと丁重におことわり致しました。その方は私の話を聞き、残念だなあそうなのかと云われその日はそれで話は終わったのですが、後日又店へ行ったところ偶然にも

またその方と隣り合わせになり、先日と同じような話を聞かされ、あまりにも熱心に進めてくださるので、私の気持ちも一度やってみようかなと考えが変わりました。

その後正式にお話をさせていただき、私はお借りするのにあたって大家さんに私の条件でお借りできるなら考えてみますとお話しそのお願いはもし失敗しても決して大家さんにご迷惑をかけないで終わりたいので出来たら家賃を日割りにして下さいとお願いしました。

すると大家さんは「君、私はいくつか店舗を貸しているが家賃の日割りなどの話は聞いたことがないヨと、失笑されておられましたが話の中で私の熱意に負けたのか、話を聞きいれてください、それなら日割りでもいいよ、お通帳を作るから店が終わったら毎日私の家のポストに入金しなさいという条件で話しがまとまり其の店舗をお借りする事に成りました。

それから3年間その店舗で頑張った後に他に移転し、店舗を拡大しながら15年間新宿で飲食業に従事しておりました。

その後昭和54年に事情により地元に戻る事に成り、自宅・店舗を全て売却し、昭和55年に現在の相模原に新たに開店し現在に至っております。

最初の店舗から考えますと、50年間飲食業に携わって来ましたが、飲食の仕事は食べもの、飲みもの高を提供させて頂くのではなく、半分は(空気)雰囲気もお売りしているのだと、常日頃意識して経営しております。

*従業員にはお客様を差別せず、その人の良い面を見つけたし、聞き出し会話を展開して行く事をお願いしております

*目配り・気配り・心配り を接客の3原則として周知徹底させ実践するようにしております

*ロータリーの四つのテストの言行はまさに、企業の理念や、経営方針のなかで生かされる大切なテストだと思っております

16

私の職業倫理観

柏木秀信

(有)モア アンド モア

「私の職業倫理とその遂行」

私の職業倫理をあらためて意識するなら、倫理の基準が何かということが重要です。

その倫理の基準は、経営者としての企業理念に基づきます。

私の職業は、(有)モア アンド モア(業種は大学受験予備校・東進衛星予備校)の経営です。

会社の企業理念は、「A:教育の機会均等」、「B:自立した人間を創り、社会に貢献できる人材を送り出す」、「C:地域の学力向上」です。

Aとは、よりすぐれた授業をよりすぐれた教務によって多くの人々に公平に受けていただくことです。Bとは、学習を通じてPDCA(プラン・ドゥー・チェック・アクション)を身につけさせ、計画的に物事を達成する喜びを身につけて頂きます。Cとは、見せ掛けの予備校、塾、非効率的学習指導をする予備校、塾になじんでいる学生を、私共のより上に位置するであろうシステムによって、効率的に無駄なく学力をより一層身につけていただくことで、地域全般の学力アップを計ることです。

この企業理念を実行していくに当たり、その実行が「真実なのか、みんなに公平なのか」というものさしにかなうなら、私の職業倫理は遂行されたこととなります。

予備校という仕事は、学生が学校で与えられた知識の導入を、定着させ、さらに応用力がつくようにすることです。従って、学生に与える授業は個々の学生にあったレベルのものでなくてはなりません。また、授業を与えただけでなく、それが本当に学生の実になっているかの管理がきわめて重要です。学生にとっては、それによって自分の目標を達成できたという満足がなければなりません。この授業と教務が私共の商品であり、私共が実行する職業倫理の大前提となります。

私の職業倫理を実行するには、社員に対する倫理(社員が満足、幸福に結びつく仕事をしているという意識を持ち、顧客のために働いているという意識を持っていただける企業行動をさせる)の実行が一番重要となります。

顧客にとっては、同じお金を使って学習するなら、より有効的な勉強を受けられて、より学力向上に結び付けられたという結果が伴わなければなりません。

よりすぐれた商品を提供することにより、対顧客、対地域、対社会、対社員に満足と幸福を与えられるなら、私の職業倫理は存在し、遂行されたということになります。

17

私の職業倫理観

門倉和博

会計事務所には、色々な相談が持ち込まれます。税金や税務申告の相談だけでなく、記帳、給与計算や人事労務、会社経営、資金調達、資金繰り、事業承継、相続贈与、事業計画、行政関係の許認可など、様々あります。たまには家族問題の悩みで私どもに相談にこられる事もあり、お客様の悩み事に何が最善の手立てなのか、あれこれ頭をひねり続けています。

何が最善か、お金だけがすべてではありません。まわり道でもお客様が人生の勝者になる幸福への道をお勧めすることが私どもの役割です。

人生は苦しいことのほうが多く楽しい時は一瞬です。金儲けができても、年老いるし、病気にもなるし、次から次へと悩みは尽きません。どんな人間も悩みだらけ、幸福へ繋がる道から外れないよう一緒に歩いてまいりましょう。

18

私の職業倫理観

金子英行

私は他人の飯を食ったことがありません。それは、私が大学3年の時に父親が幼稚園を設立し、非常に忙しくしていたものですから、学生を続けながら、幼稚園を手伝っておりました。当時は第二次ベビーブームの真っ只中で、幼稚園はどこも満杯で園児募集などしなくとも毎年入園をお断りしなければならない状況でした。幼稚園浪人が多くいたのです。そのような現状を考え、この地域に幼稚園浪人を出してはいけないと、毎年増築をし、第5期まで工事を行いました。このような状況ですから、幼稚園経営も順調に推移し、10年間は全くの経営努力なしでも、増築の費用は全て返済ができたのです。

しかし、開園10年後位から合計特殊出生率が低下しはじめ、全国的に幼児人口が減りはじめ、我が園もどんどん減ってまいりました。最盛期の昭和52年には(419名)だった園児数も平成7年には(191名)まで減ってしまったのです。

このままでは潰れてしまう。このとき非常に危機感を抱き経営改革を行いました。色々な人に話を聞き、そのとき考えられる事は全てやってみました。しかし、結果はまた減ってついに(171名)になってしまったのです。当時は幼稚園経営が成り立って行く園児数は200名と言われておりましたので、このままでは先細り潰れることが見えていましたので、一念発起し、色々なセミナーや見学会に参加し、知恵を得、経営の基本を教授し、今度は自分で出来る事は全て行い足元を固めようと思ったのです。それには、先ず自分が変わらなければ何も変わらないということに気がきました。その原点が挨拶と掃除そしてお辞儀です。挨拶は相手と向き合い笑顔で元気に声を出しそしてお辞儀をする。子どもは勿論、保護者、職員、近所の方、道ですれ違う方、私と顔を合わせた全ての方に挨拶を交わすようにしたのです。掃除は一番汚い所(トイレ)を一番綺麗にする。ピカピカにして用を足す者が気持ちよくなるようにする。それには汚れた便器を素手で洗い、こびり付いた汚れは紙やすりを

使って磨き、臭いが完全になくなるまで磨きこみました。そうすると、何か達成感が湧いてきて更に磨きたくなってきたのです。また、室内では見えないところを綺麗にしようと、建具のさんの上やロッカーの上、戸袋内など目に見えない所を綺麗にしたのです。このような行動はすぐさま職員にも波及し、全職員が一同となって綺麗に向かっていたのです。言葉で100回言うより1回の行動が相手に伝わり、よい方向に向かって行くことがその時よく分かったのです。掃除と挨拶とお辞儀で、我が園の評価も高まり、一番減った翌年には41名増え、その翌年は60名増え、3年目も25名増え297名になったのです。現在は更に増え348名が通園しています。

12年前自分を変える為に考え行動したこと(挨拶、掃除、お辞儀)が職業倫理といえるかどうか分かりませんが、自分では、人間生活を営む上で一番大切に、実行している事柄ですから今後もこれを大切にしていきたいと思っています。

19

私の職業倫理観

河田明成

私の職業は司法書士で、主に登記業務を行っております。法的に正しいかどうか、さらには当然のように、一字一句の正確さが求められます。不動産を購入したら、自分の名前が間違っていた。会社を設立したら、商号が間違っていた。そんな事があつたら大変な事になってしまいます。

従って、私の職業倫理観は、正確かつ公正に登記の申請をする事です。司法書士倫理にも「公正かつ誠実に業務を行う」とあります。司法書士として当たり前ですが、もっとも重要な事だと思っております。

それでは、正確に登記の申請をする為には、どうすれば良いか?

私が心がけている事があります。それは、仕事で使用する車を含め、事務所の整理整頓、掃除をする事です。事務所内が汚れていたり、きちんと整理整頓ができてないと良い仕事はできません。

また、掃除をすることにより事務所内の人間関係も円滑になると思います。たとえば、以下のような話があります。

80年代、ニューヨーク市では、年間60万件以上の重大事件が起きていたそうです。しかし、90年代に入ると急速に犯罪件数が激減します。なぜか？犯罪都市の流れを変えたのは何だったのか。新しい地下鉄の公団総裁になったデビット・ガンは、地下鉄を徹底的に清掃する方針を打ち出しました。すると、地下鉄の重大犯罪は75%も減ったのです。環境の乱れが気の乱れになる事を、新総裁は見抜いていたのです。

少し大げさな例かも知れませんが、掃除をする事により職場の空気が落ち着き、人間関係も円滑になり、より仕事に集中できるようになると思います。

司法書士としての一般的な職業倫理は「司法書士倫理」に定めているところですので、私の普段から心がけている事について書きました。この心がけとともに、正確かつ公正に業務を行いたいと思います。

20

私の職業倫理観

霧生和雄

仕事と社会において責任と自覚を持ち、誠実な姿勢で全うする。

21

私の職業倫理観

小林信二郎

桜井運輸株式会社 代表取締役

「私の職業倫理とその実践」

我が社は主にトレーラーと大型トラックによる大型精密機械の全国輸送と倉庫での保管を業務としている従業員16名の運送会社です。会社の創立は、昭和48年10月で、初代の代表取締役であった義父

の後を継いで私が代表取締役に就任したのは平成元年4月です。この前後の、いわゆるバブル経済の只中の数年間は、ある程度は余裕のある順調な経営が出来ました。その後のバブル崩壊の未曾有の不景気の時代は、機械製造メーカを初めとする我が社の得意先の経営が低迷し、仕事受注量が激減し、我が社の経営も大変苦く、車も減車し、従業員も結果的に削減しました。また、仕事の受注を大手の得意先数社だけに頼っていた営業体制を根本から見直し、担当者を入れ替え、我が社の車で運べるものは何でも仕事にしようという方針に切り替えました。我が社の運転手は、今までは大型精密機械やそれに準じたある程度規格が決まった品物を運んでいましたが、経営方針の転換によって、今まで運んだことのない様々なものを、多方面に輸送することになりました。これによって従業員のとの軋轢もありましたが、経営者と従業員がひとつになってこの状況を乗り切らなくて会社は存続できないことを従業員に説明し、何度も話し合いました。現在は、ようやくこの体制が我が社の運営形態となって安定してきました。この4年ほどは今振り返っても本当に大変な時代であったと思います。

現在、メディア等では日本経済はバブル崩壊後の長い不況の時代からようやく抜け出し、いざなぎ景気を超える長期経済成長を続けていると報道していますが、輸送業界は原油の価格の高値止まりが、利益率を圧迫し決して楽観的な状況ではありません。また、近年、環境問題、安全規制等に関する種々の法令が新たに制定され、これらに対応する為のコスト負担が中小企業の経営を圧迫しています。社会的、地球的規模から見ると、法令を遵守し社会に貢献する企業を経営していくのが、経営者のあるべき姿ではありますが、現実には大変厳しいものがあります。法令の中には現実を把握していない、中小企業いじめとしか言いようの無いものもあります。しかし、我が社の経営理念として、法令を遵守し、安全輸送、健全経営に努めることを第一に、時にはやせ我慢をして頑張っています。

私は、会社を経営するに当たり、企業は健全な経営により利益を得、それにより社会に貢献すること

が使命であると考えています。社員16名の後ろにはそれぞれ家族がおり、その生活を支えているのが我が社であることを日々肝に銘じて、社員が自分の会社を社会に誇れるような会社でありたいと思っています。

22

私の職業倫理観

齊藤紀美孝

私は仕事について明確な倫理を考えたことがありませんでしたが、この機会を得て整理してみました。

電気というのは便利なものではありますが、人類の生活を現代足らしめている要因の一つであることに誰も異存を唱えないと思います。

例えば子供が生まれ、病院の保育器に入り、紫外線の消毒器による哺乳瓶を使い、空調設備の整った病室で親子の対面、電気無くしては安全安心に成立しないように思われます。

電気の流れは、発電設備-送電設備-変電設備-低圧電線路-個別宅内電気回路となっております。

私どもが携わるのは、最後の個別宅内電気回路、ようするに家庭、仕事場の機器が動作する為の電気を供給する電線路を造る仕事です。

私どもの仕事の範囲で電気が安全に供給されない状態を考えてみますと、一つは漏電が考えられます。

これは、作業のミスと配線する製品の違法がありますが、電気工事士法と電気用品安全法を順守する限り起きないはずで

しかし、現代はいろいろな商売上の思惑と誘惑に取り囲まれています、過重な仕事スケジュール、受注競争による無理なコストの削減など、順調に商売を続けていく上でも背中合わせの事です

5年10年50年と使い続ける私どもの仕事という商品、お客様の生命と財産を脅かさない仕事という商品、商取引上縁が切れても安心して使い続けられる仕事という商品。

経年に耐えられる配線設計、商品提案、工事手法を経費と電気工事の「憲法」電気設備技術基準の狭間でお客様とのやりとり。

電気工事士としての経験と使命で、未来のお客様自身の生命と財産を守る事こそが職業倫理と考えたいと思います

電気工事士になって、早32年になりますが、社会の構造も随分変わりました。

しかし、安全で安心なインフラの中でお客様が暮らせるように、人々が暮らせるように、スイッチを入れれば何事もなかったように、動作し点灯し何時までも続くように、電気工事三法にのっとりた工事をし続けたいと思います。

23

私の職業倫理観

佐藤眞一

「私の職業倫理とその実践」

職業奉仕委員長から大変な宿題を貰い、まいりました。職業倫理などと言っても、自分自身、人さまに披露できるようなことは何にもやっていません。苦しまぎれに自分の行動の指針について、触れてみました。多少ピントがずれているかも知れませんが、ご了解下さい。まず最初に自分の職業、仕事に対する責任を常に自覚することを心がける様に努めています。私は個人事業で不動産管理を主として行っていますが、お客さんに対しては、まず『自分が相手の立場であったらどうして欲しいか』と親身になって考えれば、誠意をもった対応ができると思います。何事もそうだと思いますが、簡単な様ですが反省の連続です。そして次に『今が大事』と常に自分に言い聞かせております。今できることは、すぐに行動に移し、今日できることは今日中に、明日ではクソの役に立たなくなることがあります。何かせつかつきの様な気がしますが、過去の経験からこの位の心構えは必要だと思います。又困難な場面につき当たった時は、今がふんばり時、神が試練の場を与えてくれたものと前向きに

取り組む様心がけます。やらなきゃしょうがない訳ですから『どうせやるなら前向きに』です。次に私は常々、世の中すべて無駄なことはないと思います。よく、『あれは、やっても無駄だからよそう』と最初から自分で決めつけ諦めることがあります。

案外そんなところに越度があると思います。結果的には無駄になり、その時、役に立たなくても、後々、何かのためになり、良い経験になると思います。次に現在、取扱い中の仕事については、誰よりも、そのすべてを熟知していることが必要、特にマイナス面については、自分の都合の良い様に解釈し、蓋をしがちですが、マイナス面こそ、ハッキリさせ最初に取り組むべきだと思います。最初苦労しておけば、その後の仕事が楽に進められ、正しい判断ができると思います。

最後に人間のやること、間違いはつきものだと思います。間違いに対して、いかに責任をもって、迅速に対応できるかが重要だと思います。昨今の、様々な不祥事は、当初の対応のまずさが、後々、問題をより大きくして取り返しのつかない事態にしています。私達も、身の周りにいつ、この様なトラブルが発生するかわかりません。その時こそ、私達の責任感、倫理観が問われると思います。日頃ロータリーに出席して、お互い人格を高め正しい判断ができる様心がけましょう。

24

私の職業倫理観

佐藤真吾

現在、建築士の業務環境は一昨年起きた姉齒建築士による構造計算書偽装事件によって大きく変わろうとしています。

今回の偽装事件を受けて、建築物の安全性確保のための建築行政の管理強化と改正された建築基準法や建築士法が6月から施行されることになり、建築士の業務における社会的責務は、社会のニーズの多様化の進展と相俟って、益々その重要性を増すことになりました。

建築物は、その存在自体が少なからず公益性や公共性を有し、都市を形成する重要な環境要素であり、そして社会的な資産となるものですから、建築物に要求される安全性、機能性、快適性、耐久性や美観性を経済的な制約とバランスよく調和させ、実際の「形」に具現化し、地域社会に供給することが専門職能である建築士に求められる、「倫理的責任」であると思います。

現実には、社会のニーズの多様化、建築技術の高度化によって建築士の業務形態は、構造設計業務や建築設備業務などの専門業務ごとに細分化される傾向にあり特に、構造に関わる設計業務はたいへん専門性が高いために、姉齒建築士のような構造設計専門の事務所に下請けとして再委託しなければならないのが実情となっています。

弊社では、会社設立当初から現在に至るまで、構造的な知識と技術、経験ともに優れた一級建築士を要員として常に配置し、社内において建築物の構造的な安全性の確保が図られるシステムを構築し、建築主の高い信頼を得てまいりました。今後も、建築主の「要望」を確実に把握し、徹底した業務管理によって優れた品質の「建築」を供給し、安全、快適な地域社会の形成にお役に立てれば幸いです。

25

私の職業倫理観

佐藤寅蔵

私の職業は総合建設業です、主に施主の要望する建物を建築しております。

一つの建物が完成するまでには沢山の工程を踏まないと完成に至りません、まず初めに行なう事は、施主が何を考え何を実現したいのかを良く聞く事からスタートです、次に重要なのが現地調査です、現地調査が終わると企画を立てます、企画に沿って基本設計に進みますがこの部分が非常に大切です、何度も検討を行います、企画と基本設計でその建物の方向性が確定してしまいますので非常に神経を使います、なぜ神経を使うのかと言いますと、一つにはこ

の計画が事業計画通り機能しないと意味がありませんので事業計画は依り慎重になるわけです、それに長い期間存続しますので長い期間ビルの機能が維持できるよう将来に渡っての考慮もして置かなければなりませんそして又新しく建つ建物は社会に非常に関係してくるわけです、この一つの建物が出来上がる事によりこの建物には人々が行きかいカンショウし合うようになります、また近隣関係においても近所の人々の日照、景観、風の通過等色々な影響が発生します、工事中も地域、近隣にも多大な迷惑、また理解を得て進めていきます、工事は安全が一番ですので、工事担当者は安全第一主義でおこないます、このように日常広範囲に社会と関わりながら日常業務を堆こうしておりますが、企業人として一番大事なことは自分たちの行う業務の基本姿勢にあると考えています。私たちの仕事は世の中の為にどの様にあるべきか、どの様にしたら世の中の為になるのか、そして自分たちの為になるのか、この考え方を基本に構築しています。

私の生まれた所は山間の小さな村でしたが小学校5年生の時の担任の先生は自分たちの村の村道が砂利道で埃だらけ凸凹だらけの道を指して私たちに、君たちが大人になったら、この様な道を立派な道にする様な大人になりなさい、そして進んでそれらの事を行いなさい、それが大人に成る事です、と教えて頂いた事を今も基本に考えており行っております。私の職業倫理はこれ等のことをふまえ「みんな、世の為、人の為、そして我の為」この事を基礎ベースに物事の判断を行っております、多くの人々が暮らす世の中、自分に誇りを持って自分たちの仕事をキチンとやり通す事だと思っています、誰もが平和で平穏な暮らしが出来る事を願っています。

相模原グリーンロータリークラブに入会をしてからはや15年が経過をしようとしております。その間、常に『職業を通して社会に奉仕をする』と言う気持ちで仕事に専念しているのが本音であります。

ロータリークラブに入会をする以前の考え方としては、自分自身の立場が理事長・園長と言う事で、自分では知らず知らずのうちにワンマン的要素の職場作りをしていた様な気がします。

実際問題として、25歳から幼稚園経営(経営者)を、29歳から幼稚園教育(園長)を一手に任せられ、周囲は皆、他人と言う中でのスタートでしたので、きつい部分も多々ありました。が、今日まで来られたのもスタッフ(教職員)の理解があったからだと感謝しております。

その時々、自分では最高のプランを持って仕事に情熱を燃やすのでありますが、熱血の度が過ぎワンマン的傾向になって行く自分を感じた日々もありました。若さと情熱といちずさが盲目的にさせていた時代を考えると反省点ばかりであります。

これらを払拭したのが、ロータリークラブへの入会であります。仕事とは直接関係はないのですが、入会をした後からは、少しものの考え方が変わって来た様に思います。

仕事柄、生産性のものではなく、人を育てる、慈しむ職場ですので、教育目標をしっかりとたて、教職員一人ひとりが、ひとつの目標に対して、相互理解を深め、『日々、子ども達の健やかな成長を願い』鋭意努力する事を惜しまない様、共通理解を図りながら、『喜びと充実感』が味わえる職場作りを心がける様になったのも、ロータリーで言う『寛容の精神』のお陰かなと思っております。

今は、上記にも書きましたが、『職業を通して社会に奉仕をする』のは勿論の事、更には自分自身にかせた『自己研鑽への奉仕』を遂行する事が私の生きがいでもあります。

今は、56歳。職場や地域社会において、『自己研

鑽への奉仕』を磨いて行きたいと考えております。

■会社紹介

幼児教育を司る「幼稚園」が私の職場です。昭和39年開園(約38年前)。長い年月生活した旧園舎を平成8年に取り壊し、平成9年に新しく園舎(RC)(2階建)を立て替えました。

南向きで暖かいお部屋の子ども達は伸び伸びと幼稚園生活を楽しんでおります。又、園庭内には緑も多く自然環境にも配慮し、自然との触れ合いも大切にしております。

教職員スタッフは、教育経験豊富で真摯に子ども達と向き合い、教育目標の確立に日々努力を重ねておるのが現状です。

当幼稚園の教育目標は、

○子どもの自主性を育てる。

○創造性を引き出し育てる。

○人・物に対するやさしさ・思いやりの心を育てる

子ども達の健やかな成長を願い、保育環境の充実・保育プログラムの実線・確立等々、毎日慌ただしく生活している昨今です。

27

私の職業倫理観

篠崎雅彦

高校生時代は漠然と政治・経済が好きだったのでその方面の大学に進学したいと思っていました。具体的にどんな職業に就きたいという思いはありませんでした。

しかしながら諸事情により結果的には工学部建築学科に進む事となり建築に携わる職業に就きました。元々建築というかいろんな建物や海外の建物の写真などを見るのは好きだったので、建築の計画や設計は嫌いではなかったと思います。

建築設計事務所に10年、建設会社の設計部に11年在籍し、その後独立をいたしました。

設計事務所として登録しその1年後に法人登記を行い正式に業務を開始し現在に至ります。

ここ十数年は多くの企業で企業倫理に関する教育や意識付けが重要視され研修等も多く実施されています。もちろん私が就職して働き始めた当時は何処もそのような倫理意識はあまり共有されていなかったと思います。しかしながら各個人は当然の様に職業倫理、企業倫理感を持ち合わせていたと思います。もっと広義な一般社会での倫理意識とでもいうようなものです。

国内に於ける各種免許制度は各々法律の第1条項が『国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする。』という事であるから、これら目的を達成するために個人に与える免許であることから個人としての倫理基準は一般社会より推進されなければならないと思われる。

こうした中で建築関連の免許の一つである建築士の免許は建築科や建築関連の学校を卒業した者の多くが目指すところです。

建築士の免許、資格は真に生命の安全と財産の保全・保護に直結する任を担っています。

よって、より多くの人々が使用する建物はその使用目的の為、細かく厳しい法律(規則)等が適用されています。しかしながら順法だけで設計できるものではありません。

機能性、快適性、近隣・周囲との調和・協調、コスト価値などさまざまな要素が折り重なっています。もちろん建築関連、土木関連の各種資格も同じ使命を担っています。

職業倫理は広義には私たちの社会が数千年に渡り築き上げた民意に根ざしていると思います。しかしながら近年はその民意が揺らぐ事件等が多くみられます。

そういう時代だからこそ、一層職業人としてより高い倫理観を高め推進していかなくてはならないと考えます。

現在は建築設計というより建物の監理業務と実家の不動産等の管理の仕事が主になっています。仕事は多くの方と関わり合う業種ですから、ロータリーに入会してより一層倫理観を持った職業人でありたいと思います。

私の職業倫理観

28

神座磯男

経営理念

私たち神座グループは、人と地域を大切に、健全な環境と空間を創造することを、経営理念としています。業種(営業品目)は、オフィス家具の新品・中古品・B級品の販売と買取・オフィスデザイン設計施工・オフィス什器の移設、移動サービス・産業廃棄物収集運搬サービス等、オフィスを主体の事業を展開しております。

目まぐるしく、変化のある社会だからこそ「オフィス環境」も様々に変わる。そこに人間が働きながら生きている空間がある。快適なオフィス環境の提案と、空間の創造こそが私たちの仕事です。

同じ商品は何処にあらうとも、同じ人間は二人とこの世の中に存在しない現実、我々は「人で売る」「心で売る」を永遠のテーマとして発展し続けることに挑戦します。

社員一人ひとりが、企業の一歯車でなく、一社会人として、社会からあてにされる人間に成長し合うことが、企業の存在意義であり、存在価値を求められるところであると思います。

■会社紹介(神座グループ四事業所)

川崎本店…川崎市宮前区 横浜店…横浜市鶴見区
大和店…大和市大和東 アラジン…相模原市星が丘

株式会社神座/アラジン株式会社

代表取締役社長 神座磯男

私の職業倫理観

29

関根正司

私の職業はビルメンテナンス業です。平成2年2月にある知人からのお誘いにより、一日だけ人が足りないで、マンションの定期清掃業務のお手伝いをさせていただけないかとのご連絡があり、初めてこの業界の仕事に従事させていただき、お手伝いと言っても仕事の内容も良くわからず、終始責任者の方からの指示で動く程度の作業しかできなかった記憶があります。

それから約2カ月後に、個人事業として平成2年4月より関根クリーンサービスとして開業。当時はまだ好景気の時期でもあり、毎月順調に新規の物件作業を受注する事ができ、その都度人員確保に奔走していましたが、人員の増加やその他の環境変化も伴い、平成3年3月に有限会社ワンステップとして法人登記。当時の会社名をワンステップとしたのは、一步一步着実に歩んでいけるようにとの思いでつけました。

その後、平成6年に有限会社アポロステップと名称を変更。平成17年には同列会社であった有限会社アポロサービスと会社合併を行ったことを機に、社名も新たにスタートをしようとして社員に社名を公募したところ、現在の私たちが携わっている仕事は「気づき」が重要。すなわち「フィーリング」を捉える感性を養えとの思いを込め、有限会社アポロフィールと名称変更。平成18年には資本金を1000万円とし株式会社へ組織変更。

そして、2009年創立20周年を機に、今後も携わるすべての皆様方とベストな関係を構築できるよう、社名も新たにBESPAR(ベスパ)株式会社と改め、現在に至っております。

さて、私の職業倫理観としては、設立当初の定期清掃業務を柱に、簡易的な日常清掃業務や巡回清掃業務。消防設備並びに建築設備関連、給排水関連の設備業務に日々従事させていただいておりますが、近年、私たちを取り巻く社会環境はめまぐるしく変化しており、お客様から求められるニーズも多岐

にわたり、常に変化し続けております。

この時代の変化に伴うお客様のニーズにお応えするため、現場対応力はもとより、品質向上並びに更なる安全対策に取り込み、お客様に喜んでいただける快適な住環境を提供できるよう、今後も常に研究心を忘れず、チャレンジ精神をもって取り組んでまいります。

30

私の職業倫理観

高橋正之

私の職業としては土地家屋調査士と言う資格者としての専門職ですが、アルバイトさんを含めて30名程度の会社を経営しています。資格者としての職業倫理については、土地家屋調査士の業務の本質から『公平・中立』が求められます。境界の判断にあたり、本来境界線を明らかにすることは、過去の事実を現在に復元することで、隣接者間のどちらかに利をもたらすものではありません。業務自体が物理的な業務であり、業務に『公平・中立』が内在しています。このような業務でいかに『公平・中立』を維持するかが職業倫理となります。しかし、過去の事実の復元と言っても真に復元となるかは常に疑問です。現況・所有者同士の話・公的資料等多くの素材からできる限り矛盾なく過去の事実近づけようとするのが精一杯です。私たちの感覚では精一杯矛盾なく合理的に復元することが出来ればおそらく真の事実が復元されたものと考えます。その為には、より多くのヒントを得るための素材の確保が不可欠です。それを怠ることは職業倫理に反することだと思っています。依頼者やできることなら近隣の古老の話に耳を傾け、公的資料や現況から過去の事実を探し出すための感性、感性を活発にするための知識の獲得を心がけることが、私の仕事の職業倫理だと思っています。この姿勢が顧客に対する責任となっているとも思います。また、土地家屋調査士と言う職業の社会的な責任だとも思っています。

経営者としての職業倫理としては、上記の顧客・

社会に対する側面とは別に従業員に対する責任も含まれると思います。自分ひとりのために会社があるのではなく、社員一人一人のために会社があると思っています。そのためには会社が永続しなければなりません。資格者の事業所では資格者がいなければ存続できないこととなります。現在、自分の年齢を考慮して、業務分野を明確化し、早い時期に全員がすべての業務分野を担当出来るように育成し、また、資格者の育成にも取り組んで行こうと考えています。

31

私の職業倫理観

高橋三叔

私の職業は柔道整復師です。柔道整復師と言ってもすぐに職業が分る方は少ないと思います。

柔道整復師と言うよりも接骨院、整骨院と言った方が分る方が多いと思いますが、実際にどのような事が行われているか分からない方も多いと思います。接骨院というと「揉んでもらうとか、マッサージしてもらおう。」と思われる方が多いと思いますが、実はマッサージや指圧、按摩に関しては資格免許が違います。実際には患部の改善や機能回復を目的としたマッサージ系は行いますが、「疲れたから揉んでもらう。とか、マッサージしてもらおう。」という趣旨のものとは違います。柔道整復師とは国家資格の柔道整復師免許で健康保険が適応になりますが、健康保険の適応症は、「骨折、(応急処置は良いが、医師の同意の下に行う)脱臼(応急処置は良いが、医師の同意の下に行う)、捻挫、打撲、挫傷」と決められております。しかし、痛みや違和感、重苦しい症状には必ず原因があります。痛みで苦しんでいる患者様が一刻も早く痛みから解放される為にもその原因を的確に改善させる事を考え、日々勉強し技術向上を目指しております。また、施術にあたり患者様のニーズに合わせた施術方法も考えております。来て頂いた患者様の症状を少しでも改善するのが私達の仕事ですが、患者様の症状によっては早めに医療機関(病院・医院・クリニック等)の医師に診て頂くように指示やアドバ

イスも速やかにしなければなりません。これも私達の役目だと思っております。この他に相模原市の医療災害対策のメンバーにも入らせて頂いており、相模原市内で震度5強以上の地震が発生した場合に会員全てが家族等の安全が確認後、指定の救護所に向かって救護活動を行う事になっております。実際に救護訓練も年間数回大がかりに行っている次第です。実際に災害が発生した時には速やかな行動が出来なければなりません。

東日本大震災の時には、発生2週間後と1ヶ月後に被災地に向かいましたが実際に現地に行くと自分達に何が出来るのか、不安でした。震災直後に接骨師会の役員と有志が集まり、まず会員から寄付金を徴収して相模原市の姉妹都市である岩手県大船渡市に物資の支援を行いました。原発等の情報が錯誤していましたが、2週間後に東北道の一般車両の開通と共に、人的支援として救護隊を結成し被災地に向かいました。街を見ると、地震での被害はほとんど無く、津波の到達した地域だけが壊滅的でした。街があったと思われる所がすべて瓦礫になっていたり、海に浮かぶ民家の屋根や道路を塞ぐ大きな船。まるで寄せ集められたかのような車。爆弾でも落ちたかのように、海沿いの街並みは巨大な津波によって飲み込まれてしまったようです。津波の高さや威力は、メディアを見て想像していた物よりもはるかに凄まじいもので、海沿いにある5階建のマンションは4階の窓まで津波が到達していました。実際に現地では自分達に何が出来るのか不安でしたが、一人でも多くの方のために避難所を手分けして17ヶ所300名以上の被災地の方々の施術をする事が出来ました。現地での活動がどの位役に立ったかは分かりませんが、「今、出来る事。」の中で最善な事は何かと考え活動しました。1ヶ月後にもう一度大船渡市に向かいました。瓦礫の処理はまだまだでしたが、避難所になっていた学校の校庭には仮設住宅が建ち始めていました。

実際に通常時の施術もそうですが、災害時にも「今、出来る事。」を考え、最善な行動しなければいけないと心がけております。

世の中が複雑になってくるにつれ、職業も多種多様になり、改めて「職業とは?」とか「職業倫理」とかを考えないと訳が分からない時代になった。

以前にも職業奉仕に関して書いたことがあるが、職業というものを単純化して考えるため、大昔の原始の生活までさかのぼってみる。

彼らは働ける年齢に達すると、自分達の生活の糧を求めて、皆一緒に労働をしていた。

彼らは決して、自分個人のために働くのではなく、老人、子供まで含めたその部族全体のために働いたのだらうと思う。自分だけ余分に食料を蓄えようとか、おいしい果実を自分だけでこっそり味わおうとか、ということは恐らく考えもしなかっただろう。

職業の原点はここにあるのだらうと私は思っている。今は世の中が広くなりすぎて、我々は社会の一員(部族の一員)という認識が薄れ、その代わりに個人個人の認識が強くなり、自分のためという、非常に狭い範囲の職業意識が強くなってきていると思う。

その結果、個人の利益のために周りの多くの人が不幸になるという現実が多く見られ、会社の利益のために、社会に害をなすものを作り出しても平気であるという残念な世の中になっている。

原始の祖先達を見習い、『職業は社会のためになる仕事をする。』という基本的なスタンスを改めて認識し、教えていかねばならない時代なのかもしれない。

ところで私の職業は、産業用の各種自動機械を設計、製造する会社を経営しております。

当社の企業理念は、

- 我々は、“ものづくり”によって人々の幸福追求のために貢献する。
- 我々の作り出す機械装置が人間に代わって様々な有益な仕事をこなしてゆく。
- そういう生産活動を通して社会に貢献し、人々の幸福追求への一助をなす。

ということです。

我々は、オーダーメイドで顧客の要望に応える機械装置を設計、製造しております。私の職業倫理観は当社の企業理念のとおりです。

我々が作り出す機械装置、又はそれを使って生産される様々な製品により、人々が更に快適に、安全に、そして健康な生活をエンジョイ出来るようにと日々努力しているところです。

■会社紹介

商号：星工業株式会社

所在地：252-0245 神奈川県相模原市中央区田名塩田1-13-1

TEL.042-777-3366 FAX.042-777-3677

<http://www.hoshi-ind.co.jp>

代表者：代表取締役 田中絃昭

設立：昭和42年7月(創業 昭和23年6月)

資本金：3,000万円

従業員数：22名(平成18年11月現在)

事業内容：プラスチック押出成型装置の設計、製造、販売、製薬関係自動機械の設計、製造、販売、その他自動機械の設計、製造、販売

特長：当社は顧客の要望に応じて、オーダーメイドの自動機械を設計・開発から部品の加工、制御、組立、試運転調整、納入据付まで一貫して行っている。

息子はお酒のメーカーや問屋に修行に行くのが普通の時代でした。しかし、お酒の専門店を目指すからこそ他業種の専門店を選択し勤務を致しました。その会社は流通業大手のグループ会社であり、私は商人としての基本をこの会社で習いました。通常は社長がトップの組織図ですが、そのグループではお客様が一番上で、その下が担当者となり、一番下に社長がいるという、逆三角形の組織図になっていました。また当時スローガンとして「基本の充実と変化への対応」が掲げられておりました。私の経営理念となったこのスローガンを忘れることは出来ません。商品の発注も当時最先端のモデムでの発注を導入していましたし、有給休暇も積極的に消化させていました。学生時代に手伝っていた父の酒屋との大きな溝を感じたのは言うまでもありません。そのような経験を生かし父の酒屋に戻った時に、お店をいろいろと改革し、地酒やワインなどに力をいれていたことも会社員時代の「変化への対応」を実践した結果であります。また、酒屋時代の平成3年に入会した商工会議所青年部での活動は、研鑽と人脈という面で、私に刺激を与えてくれました。

そのような経験の後にコンビニがスタートする。このスタートこそが家業から企業へのスタートとなった訳です。企業とは営利を目的として経済活動を営む組織であります。しかし現実的に当時の私に大切であったことは、コンビニのマニュアルを最大限に活用しつつ、私とスタッフとお客様との信頼関係を築くことが最優先であり、その結果として会社の利益がついてくれば良いという考え方でした。最初の半年は1日も休まずに毎日長時間の仕事をしました。徐々に仕事をスタッフに任せて次の年の正月を少し過ぎた頃、初めて休日を取ることが出来ました。お客様も徐々に増えてきました。1年を経過した頃お店がよい環境になってきました。それはお客様をトップとする逆三角形の組織の考え方がお店に定着したのだと思います。通常は3～6ヶ月で辞めてしまう学生のアルバイトですが、私の店では平均で3年位は続けてくれました。

私にとっての職業倫理観は、先ず先入観にとらわれずに仕事を進める上での最善の方法を考え、お客

33

私の職業倫理観

中村昌治

私が会社を設立したのは、平成5年の1月でした。同年の6月には20名以上のアルバイトに支えられコンビニエンスストアを開店致しました。

元々は、父の経営する酒屋で仕入れ等を担当し、地域で一番お酒についての知識を持った専門店を目指しておりましたが、父が高齢となりリタイアさせたかったこと、個人で経営する酒販店での限界が見えてきたこと、また熱心にコンビニエンスストアのリクルーターが通ってくれたこと、そして何よりも当時持っていた免許品(酒・たばこ等)を有効に生かせることなどの理由から、平成4年の12月にフランチャイズ契約をして起業をする事になったのです。

さらに話しはさかのぼりますが、私が初めて仕事についたのは昭和59年の3月に紳士物のカジュアルウェアを取り扱う販売員としてでした。通常、酒屋の

様・お取引先の役に立つこと。次にそのために視野を拡げ研鑽に努めること。さらに自らの姿を従業員に見せ、次代を担う若者を育てていくこと。現在では、直接のコンビニ経営からは離れていますが、地域の皆様からいろいろな声を伺い、今後の活動に生かして行きたいと思っております。

34

私の職業倫理観

西迫 真

医療法人社団平雄会 理事長
にしさこ こどもクリニック 院長
小児科専門医

「聴診器をあてるだけでなく、
話をする診療」

二次病院や大学病院に勤務する小児科医とわたしのように開業している小児科医の役割は大きく異なります。開業小児科医の日常診療の患者様の大半が「風邪症状」で来院されます。その中から重篤な疾患を見出し、高度医療が必要な患者様は二次病院や大学病院の紹介をします。ようするに病気の振り分けをしているのです。しかし、患者様の親御さんの中には「診てもらうなら大きい病院のほうが安心だ。」「大学病院の先生の方が開業の先生より優秀だ。」といった勘違いで、ただの「風邪」なのに二次病院や大学病院の外来に受診し、これらの先生の重症な患者様への診療時間がさかれているのが現状です。

小児科の開業医の先生は地域の子どもたちの「かかりつけ医」として診療をしています。その内容は、聴診器をあてて診断をし、薬を処方することだけではありません。一概に「風邪」といってもいろいろな症状があります。親御さんが一番心配してくる症状はやはり「発熱」です。その発熱に対してただ「解熱剤」を処方すれば本当に親御さんは安心できるのでしょうか？もし、解熱剤を使っても熱が下がらなかったら？そして解熱剤を使って一旦熱が下がったとしても再び熱が上がってきたら？・・・おそらく不安が

募って夜間の救急病院に受診することになるかもしれません。わたしはこどもが初めて出した発熱で来院した親御さんにはこのように言います。「熱が出てよかったですね。」その上で「熱はなぜ出るのか？」を正しく理解してもらうように話をします。人間は体内に入ってきたウイルスや細菌に抵抗するためにあえて熱を出します。脳炎や脳症などの合併症がないかぎり脳に影響を与えたり、後遺症を残したりことは基本的にありません。逆に発熱はそういう意味では、あえて出していると考えてもよいでしょう。意識状態がしっかりしていて、水分が取れていれば「熱」そのものに対する緊急性はありません。（注意：生後3ヵ月未満の発熱に関してはその限りではありません。）そのことを診療時間の中で親御さんにしっかりと説明をしておけば、安心してこどもの状態を観察（看病）できるはずですよ。また、夜間休日救急病院への受診をしなくてすむ確率も上がるでしょう。実際に夜間休日救急病院に受診している患者様の7～8割は受診する必要がないのに来院しているとのデータがあります。（受診することがいけないということではありません。）また、次回こどもに熱が出た時にあわてずに余裕を持って対応できるでしょう。日常の普段の診療時間の中で、病気について・看病のポイント・どのような場合に救急病院に受診すべきか・薬の飲み方や副作用について・風邪の予防方法や予防接種のプランニングなどの話をしておき、親御さんをしっかりと「教育」することが「かかりつけ医」の仕事としては非常に大切なことであると思います。

薬を処方したからといって必ずしも親御さんたちが安心するわけではありません。こどもの病気に対して親御さんたちが本当の意味で安心を得られるように、こどもを看病することができるように、わたしはそのサポートとして「ただ診察するのではなく、話をする診療」を心がけています。

■会社紹介

1975年に父 西迫平雄が津久井郡城山町に分娩施設のある産婦人科診療所「西迫産婦人科医院」を開業しました。父の「生まれた赤ちゃん（新生児）を診てくれる医者がほしい」という言葉がきっかけで聖マリアンナ医科大学を卒業し小児科医になりました。北里大学病院の小児科に入局、2000年11月に「にしさこ こどもクリニック」を産婦人科と併設して開業しました。現在

は産婦人科医の弟が「にしこレディースクリニック」として産婦人科を引継ぎ、兄弟で津久井・相模原地域の周産期医療にたずさわって地域医療を行っています。お母さま方が安心して分娩ができ、そして子育てできるようにサポートしています。

35

私の職業倫理観

野田英樹

私は高校卒業後にある印刷工場に就職しました。私の父は大手自動車会社に勤めていて定年まで後数年という頃になって、これまでに働いたことのない時間の不規則な職場へ移動となり、思春期だった私には父の置かれている環境が決して快適でないことを感じそして父を不憫に思いました。

そのような中で進学して何かを学びたいというものもなく、また両親に負担を掛けたくないという思いもあって就職を選びました。入社してみると機械の歯車のひとつとなって、単調な仕事の繰り返しの毎日が続きました。そのような中で安易に就職してしまったことを後悔する日々が続きました。そしてもう一度自分の仕事というものについて考えようと3年勤めた会社を辞めました。

その後、趣味だった旅行を何とか仕事に生かせないかという思いが強烈に沸き上がり、当時の旅行業務取扱主任者という資格を取りました。そして、旅行業界に入ったのがバブル経済絶頂の頃の1989年(平成元年)でした。

小さな旅行代理店だったので企画・営業・手配・添乗といったあらゆる業務を行いました。多忙な中でも毎回変化のある仕事に熱中しました。しかし、だんだんと景気が悪くなり、会社の業績不振を実感する中で一人辞め、二人辞めと同僚が去っていきました。そして、2000年の春に会社解散が決まりました。廃業に向けての後ろ向きの業務はとても苦しいものがありましたが、私としてはその会社で業界を知り、自分を育ててくれたような恩を感じていたので最後の業務まで全うしようと決めていました。

そして、2000年の3月末をもって廃業となりそこから1年程の失業期間がありました。その間は自分と

社会との接点が無い毎日となりました。景気も悪い中で、競争が激しく他業に比べて利益率の低い旅行業界に疲れてしまっていたこともあって、別の方向へ進もうと考えることもありました。初めはのんびりしていたものの日が経つにつれ焦りと怠惰の毎日に埋もれてしまいそうな気がしました。そのような中でも昔の顧客から携帯電話に連絡をいただき、「また今年も旅行を世話してほしい」と言われて、私個人で対応し添乗に行くことが何度かありました。そこが失業中の私と社会との唯一の接点のような気がしました。そして考えました。自分が必要とされているお客様に答えていくこと、お世話になったお客様を頼りに走れるところまで走ってみようという決意をしました。今思えば華やかな門出ではなく、悲壮な覚悟の中での開業でした。そして、1年、3年、5年と年度が終わる年の瀬を迎える毎に、無事に一年間続けることができたという束の間の充足感が広がり、また新たに次の1年に挑んでいくのでした。そして多くの方々に支えられ、今年14年目を無事に終えることができそうです。

私は日々の業務の中で「旅行を通じて、地域のお客様に感動と活力を提供すること、そのための努力と挑戦を続けること」をモットーとして、試行錯誤を繰り返しています。旅行業をいう職業を通じて、人の役に立ち、社会と繋がっていることを忘れずに、社会人として経営者として恥ずかしくない生き方をしたいと思っています。滋賀県のある街の一角から日本有数の会社が数多く発祥しています。ある旧家には「商いとは売り手よし、買い手よし、地域よし」という額が飾られていることを思い出します。旅行業は、平和で災害が無く人々の心が平穏の中でこそ営める仕事です。額の中の言葉が伝えている商いの環境をいうものを大切に、これからも旅行業を通じて人の役に立っていききたい、そして良識ある仕事をしていきたいと思っています。

最後に近年の急激なITの発達により業界も大きく変化しています。手軽に情報収集などの恩恵を受ける裏にITが人のコミュニケーション能力を希薄にさせていることも挙げられます。私はそのような変化の中で、旅行者が代理店業から脱皮し、提供する

ものは、「感動と活力」そして、「旅行を通じてのコミュニケーション」といった無形なものをしっかりと人の心に届く「モノ」としての旅行商品を作り続けていかなければ生き残っていけないと考えております。旅行がお客様の日々の毎日の活力であったり、新たな発見であったり、大切なコミュニケーションの場であったりと、お客様の大切な旅行シーンに私の仕事がかげがえのない存在であり続けたいと考え、日々努力と挑戦を続けていきたいと考えております。ロータリーの活動の中で異業種の方々から多くのことを見習い自分に取り入れて自分の仕事に生かしてまいりたいと考えています。

■会社紹介

- 2001年2月 第三種旅行業として開業
- 2004年6月 相模原市中央区青葉に事務所開設
- 2007年2月 法人に移行
- 2014年4月 第二種旅行業に移行

- ②入居者様への良質な居住空間の提供と、オーナー様の不動産を通じた資産運用を高度な次元でバランスさせることを理想とし、業務に取り組む。
 - ③社会的良識にのっとり不動産賃貸、管理のプロフェッショナルとして、真に優良なサービスをお客様に提供する。
 - ④既成の概念にとらわれることなく、より良い魅力あるサービスを提供するために新しい時代に即応し常に進化をしていく心構えを持つ。
- 以上の4つを柱として日々の業務に取り組んでいます。

36 **私の職業倫理観**
長谷川太一

自分の考える職業倫理観とは、オーナー様、入居者様、取引先様、従業員などの全てのステークホルダーと幸福と喜びを分かちあうことが大切であるとおもいます。

また、企業の社会的責任の重要性を良く認識し、法令と倫理の遵守を第一として安定した成長を図るとともに地域社会との共存共栄を目指し、共に働く人々が、努力と研鑽を重ねることによって自分の能力を最大限に発揮する事が出来、生き生きと輝く明るい豊かな人生が送れるような、自由闊達な職場環境作りを理想として企業経営に取り組んでいきたいと考えています

自分の会社は不動産管理業なので上記の職業倫理観を実現するための具体的な指針として

- ①不動産賃管理のプロフェッショナルとして、社会的良識にのっとり真に優良なサービスをお客様に提供する。

37 **私の職業倫理観**
長谷川正夫

私の会社は市内で土木・建築工事を営業しています。主に道路工事、上下水道工事、宅地開発工事等を業務内容としており、私は二代目になります。戦後、父が川砂利採掘及び販売から事業を起し現在に至っています。以前はいわゆる3K労働（きつい、汚い、危険）の業界であり、現場技術者（職人）が乱暴でわがままな世界でした。そのような世界に職業倫理観を持たせる事は私も含め大変な事でした。

しかし、このような土木・建築工事の会社は市内に多々あり、他社とは差別化した特徴のある会社にしなければ生き残れないと考え、社訓を作りました。「丁寧で綺麗な仕事内容の完成物件をお客様にお渡しする。又、その過程で工事の安全管理を忘れない」としました。そして社員にわかりやすく説明するのに次のような例え話をしました。「ケーキ屋さん」の物語です。どんなに味が良くおいしいケーキでも見た目が悪ければお客様は買わない（現場を大切にしてい、丁寧な仕事をする）。おいしくて見た目が良くても包装が汚ければ売れない（仕上げの綺麗な完成物件をお客様にお渡しする）。おいしく見た目が良く包装が綺麗でも、身なりや接客態度が悪ければやはり売れない（専門職務としての水準を高め同時に安全

管理に注意する)。このような教訓を常に言っていました。そして思ったのです。ロータリークラブに入会して学んだ私の職業倫理とは、このような事ではないかと。つまり、道徳的水準を高めた事業及び専門職を提供することで地域社会に貢献し、社会の発展に寄与することです。小さな会社ですが業務内容(道路工事、上下水道工事他)を通して、地元地域のインフラストラクチャーの発展に少しは貢献できたかなと思います。そして、これからも職業倫理観をしっかり持ちながら町づくりの一助が出来ればと考えます。又、その事が従業員の目的意識や幸福感に繋がればと願っています。

38

私の職業倫理観

原 正幸

私が現在、経営している企業の業態は、「スポーツ産業」「健康産業」「教育産業」「不動産業」「ホテル業」と業種は多岐に渡っております。弊社の事業の特性としては、「異分野連携事業」・「他業種グループ経営」と言えるのではなからうか。私自身、何を目標とし、そして、どの様な倫理的思想を持って事業経営をしているのか?について述べたい。例えば「教育業」とあるが、具体的にその中に入るのは「自動車学校」や「幼稚園」である。自動車学校であれば「優良ドライバーの育成」、そして「地域の交通安全センター」としての社会的役割を果たすことであり、そして何より教習生の皆様が、そのドライバー技術を体得する為の、環境面をしっかりと提供することを念頭に入れて経営をしている。教習生の皆様が、心から安心をしてリラックスをしながら、気持ちに余裕を持って実地教習を受けて頂くことにも配慮している。自動車運転に不慣れで未熟な段階でもある訳なので、ハンドルを持っただけで緊張するのは、誰でも当たり前のことだと言えると思う。優良ドライバーを育成する為には、「教習の統一」こそ重要だと感じる。運転技術や運転マナーを身に付けてもらうには、教習自体の質の向上を図らなければいけない。私は

高い倫理観を念等に入れ、仕事に専念しようと意識はしてきました。しかし人間ですから、どうしても全てが思った様には事は運びません。気が緩んでしまう時もあります。ですが、意識付けだけは常に大切にしております。どうしても会社の利益だけを追求してしまうと、時と場合によって、私の倫理観では納得出来ないことであっても、その意思とは反対に、それをせざるを得ないことも過去には有ったと思うのです。倫理に反すると思えることでも、現代のこの競争社会の中では、企業にとっては、それが倫理的なことなのかも知れません。今の社会を観ていると、そのように思う時があります。しかし、それではいけないと思うのです。

次に、幼稚園の例を挙げて説明させていただきます。やはり幼稚園であるからには、保育の内容を的確に捉え、子ども達の発達の可能性を伸ばし、教育基本法や学校教育法に準拠して、子ども達に幼児教育を施すことを基本として園の運営をしております。更には情緒豊かで心の優しい子どもに、そして、元気に活動する子どもに巣立ってもらえるよう、教育的側面から、あらゆる配慮を行っております。これを実現する為にも教育について常に協議し合い、実証的な教育研究をし、そして日々の現場で、その教育理論を実践することを心掛けております。教諭さんや保育士さんが、その役割を果たしていく為には、やはり専門的な知識と技術が必要になるが、それは、「倫理観」に裏付けされたものではないと感じています。「倫理観」というのも非常に曖昧な言葉であるが、やはり教諭さん、保育士さん一人一人が、弊園の教育理念を土台とした倫理観に裏付けられた人間性を持つ必要があり、それを理解してもらうのは、私のような管理者の役目であると思うのです。人間が生きていく中で、モラルハザードと言われる道徳観・倫理観の欠如や低下は、一番良くないことである。倫理とは、人間の存在そのものを問い掛ける問題でもあります。大切な問題であるが故に、自分の仕事に誇りを持ち、常に社会的責任や倫理観を持ち続けたい。そして社会に奉仕をして、情熱を持って、これからも自らの仕事に邁進していきたいと思っております。

私の職業倫理観

39

坂野孝信

不動産業は取引する金額が高額なうえ、売買するには不動産に関する法律や税務など、多くの専門知識が欠かせません。

然しながら、大多数の消費者は一生に数度しか不動産の購入を経験しないため、知識のみならず経験の面でも、一般の消費者は弱者的な立場から抜け出せません。

無論、消費者側の失念や過誤による場合もありますが、一部の不動産従事者による短期的な利益追求を目的とした一方的な営業姿勢が苦情や紛争を引き起こし、時として不動産業界のイメージ悪化を誘発しています。

不動産業者は取引の関係者に対し、信義を旨とし、誠実にその業務を行なわなければなりません。まず、第一に、信用または品位を害するような行為は禁止されます「不動産業は信頼産業」なのです。第二に、知識および能力の維持向上についての努力が欠かせません。頻繁に変更される法改正や関連情報を常に把握し、要求される専門家としての能力をいつでも発揮できるよう、日々、知識を発展させておかなければなりません、「勤勉さ」が必須となります。第三に、取引の遂行にあたっては、専門家に相応しい良識に基づいて十分な注意を払い、顧客の最善の利益に資することに専念し、自己及び特定の第三者の利益を優先することはできません。「全ての顧客を公平に」取り扱わねばならないのです。そして、自らの職業行為とその能力に関して、虚偽、誇大又は誤解を生じさせるような不実の表示をせず、不動産の価格に影響のある未公開の重要情報の取扱いに十分な注意を払い、取引を完了しなければなりません。

そして最後に、不動産業者の使命として、都市やまちの創造・開発・管理・再生に関する業務を通して深い見識とノウハウを培い、その実績をベースにさまざまな分野への提案を実践します。大規模のみならず中・小規模事業の計画・実現に至るまで、あらゆるサポートを惜しみません。不動産事業の成長

発展と、そこに暮らす人々の生活を支援し、人生により豊かさをもたらすアドバイザーを目指します。

私の職業倫理観

40

福山 茂

職業倫理というのはもちろんロータリー独自のものではなく、昔からずっと存在していたものだと思います。資本主義以前のゲマインシャフト的社会ではそもそも反倫理的な行為はそのまま共同社会からの失格を意味し、地域社会との濃密な交流もあり自然に倫理を重んじていたのではないのでしょうか。

ゲーテ「ヴィルヘルム・マイスターの修業時代」の中に「複式簿記は人類最高の発明である。」というくだりがありますが、グローバリズムが吹き荒れる今の社会を見るとまさに慧眼であったと言わざるを得ません。これにより資本と経営の分離が可能になり、近代資本主義社会が誕生しました。ここではややもすると共同体内の倫理より資本家の利益が重視され、拝金主義へと結びつき、倫理を重んじることは後退してしまいました。

ですからこの近代資本主義が最も典型的に発達したまさにそのアメリカで、反省としてのロータリー運動が産声を上げたのは偶然ではないでしょう。それだけ資本主義社会の歪みが企業人の倫理観・道徳観を破壊していたのではないのでしょうか。

さて「職業奉仕」という提唱によって、まず自分の仕事の倫理観を第一に置くことを重視しているのがロータリーの大きな特色だと思います。ロータリーが単なる奉仕団体ではないという所以がここにあり、職業という身近でありながら、下手をすると一番倫理観がおろそかになりがちな分野から始めていこうというのは、すばらしいことだと思います。今の世の中を見ているとこのことはますます大事にしていくべきではないのでしょうか。

「職業奉仕」に関しての古典的議論に「会社は利益を上げて税金を払うことが奉仕である」がありますが、私は同意できません。納税は奉仕ではなく義務

です。会社の活動は安全な社会システムが不可欠です。多額の利益を上げているのはそれだけこの社会の恩恵をより多く受けているわけです。納税はその維持のコスト負担であって、これを奉仕と称するのは美しくない。

また職業奉仕を第一に置くロータリーの原則に照らせば、ある会社が社会奉仕として多額の寄付をしても、もしこの会社が途上国で一日1ドル以下の賃金で子どもを働かせて莫大な利益を上げていたとすると、この経営者は賞賛されるべきではなく、まず子どもたちに還元(奉仕)すべきでしょう。

以上職業を通して奉仕するというのは、仕事を通して自分を高め、顧客、従業員、会社のある地域社会等、身近なものをまず一番に大事にして経営していくということではないでしょうか。私もこの道を外れないように歩んでまいりたいと思います。

■会社紹介

7年弱会社勤務の後、平成元年に独立という形で創業いたしました。主に絵画の販売・買い取り・評価・鑑定を行っております。

長い間絵を売る仕事をして実感するのは、「人が絵を選ぶのではなく絵が人を選ぶ。」ということです。つまり良い絵は良い人のところに來ます。良い絵が喜んで来てくれる様な全き人になれる様、プロフェッショナルになる、端的に言えば「達人になる」というのが目標です。

本当に幸運なことに私は天職にめぐり会えたと思っております。仕事というより趣味、大げさに言えば歩くべき道という心持ちで働いています。ですので今やっていることをひたすら深めていく、年商いくらではなく完全燃焼することのみ考えています。

私の職業倫理観

41

水谷里枝子

学生時代は、漠然と、私企業にはつとめたくないと考えていました。当時、企業は営利のために活動するものと考えていたので、その歯車になれば、自分が正しくないと考えることも、職務としてしなくてはならなくなると考えていたためです。自分が正しいと考えることをして生きていきたいと、気楽に思っていました。

7年間務めた裁判官の仕事は「法律と良心にのみ

従う」と定められており、理想的な仕事でした。法律というのは、どう理解するかによって、正反対の意味にもなり得ます。「法を自分の考える正しい解決ができるように、正しい法の意味を考える」という仕事は、まさに自分が求めていた仕事だったのです。当時からコワいもの知らずのところがあり、初任の東京地裁行政部では霞が関の中央官庁の業務を左右する重大な「判断をする」ことに対する恐れもなく、時には新聞、テレビをにぎわす判決をたんと作成しておりました。

その後、一身上の理由で、弁護士になった今は、「社会正義の実現」という職業倫理を意識して仕事をしています。

ちなみに「社会正義の実現」というと、何か、絶対の「正義」と、対する絶対的な「悪」があり勧善懲悪のイメージで捉えられることが多いと感じます。

しかし、ご存じのとおり、完全な人間というのはこの世の中にいません。

トラブルになっている場合、多くは、両方が(多少の程度の差こそあれ)複数のミスを重ね、誘惑に負けるなどして、互いにみぞを深め、不信が生まれていく(憎しみにまで発展していることもあり)という経緯をたどっています。

トラブルになっているケースでは、より多く間違っている人、大切なところで間違ってしまった人というのがいるはずで、この人達を「懲らしめる」のではなく、「間違いを正してもらう」こと＝トラブルの解決、になります。これが弁護士の仕事である「交渉」であり、「和解」です。

当人がどうしても自分では正さない場合には、最終的に公権力をもって「間違いを正す」こととなります。これが「裁判」です。

私は、依頼者に間違いがあり、それがトラブルの遠因になっていけば、(多少は婉曲ないいまわしをしますが)結構ズバリと指摘をして、部分的な反省を求めます。トラブルの原因となる間違いをおかしている場合も、それを指摘します(ちなみに、そうした場合は、大抵、法律相談だけで終わり、依頼までされることはありません)。また、依頼者の間違った判断で、依頼者よりも弱い立場のもの(子供等)にしわよせが

いく場合は、それを指摘して我慢、改善を求めます。

ときには、「なんでお金を払っているのに、説教されなければならぬんだ」「なんで相手の味方のようなことをいうんだ」という反発を受けることもあります(確かに、気持ちはわかります・・(^_^))。こちら譲れないので(^_^)、どうしても納得されない場合には辞任することもあります。また、事件を受ける段階で、厳しいことを言って反発されるときには、仕事をお断りすることもあります。

以上、要するに、「依頼者のために最善をつくしながら、依頼者の間違ったところは直して、その間違いのしわ寄せが相手にも、それ以外の者にもいかないようにする」という相反する要請をなんとか成り立たせようと努力を続ける)ことが、私の職業倫理観です。

42

私の職業倫理観

宮崎泰光

私の職業は保険代理業です。保険制度は資本主義社会においては必要不可欠な存在といえましょう。保険代理業は保険会社の商品を販売するという重要な役割を果しています。

保険契約者は安心な今日明日を願って保険に加入するのですから、その期待に答えなければなりません。そのためには全力で契約者のために役立つことを心掛けております。まず加入の段階では、そのお客にとって、どの商品が良いのかを十分に検討します。保険商品は世の流れにしたがって新しい商品が次々と誕生します。それらを十分に理解し、お客にとって最も妥当な商品を勧めなければなりません。保障の内容と経済的効果それに対応する保険料が適正か、経済状況も考慮して妥当な保険料を算出する必要があります。補償が十分であっても契約者の負担があまり多くては社会的存在意義が問われることでしょう。

そのために私は少しでも保険料を安くするために、団体扱契約、団体契約の割引を活用できるよう努力しました。次に保険は萬が一に備えて入るものですか

らアフターサービスに力をいれなければなりません。迅速、適切な対応、十分なコミュニケーション、契約者の立場にたって、を守っています。このためには平生からいざという時の準備をしておくことが必要です。さて最後に保険業界をめぐる不祥事が相次いでおります。全く情けないし、申し訳ないことです。最近コンプライアンスが厳しく要請され、月に1回は研修を行われてきておりますのに残念です。もっともこれは保険業界だけの問題ではなく経済界全体いや日本全体のモラルの低下が心配されます。職業奉仕の精神を改めて学習し世に広めたいものです。

■会社紹介

私の職業は保険代理業です。取扱業務は損害保険、生命保険ですが関連して、ファイナンシャルプランナー、投資信託販売も行っております。損害保険では自動車保険、火災保険は勿論ですが傷害関係とその他新種保険が多いのが特徴でしょう。三井住友海上火災保険の専属代理店です。活動の対象は個人・団体を問いませんが、主に商工会議所、役場、広域行政組合(現在は相模原市役所)、小中高の学校を中心に営業してきました。モットーとして契約者を大事にする、契約者のために働くということを守って活動してきました。良き契約者と従業員に恵まれ、ロータリーとその他の社会的活動もやってこられたことを、ありがたく思います。残された日々を精一杯頑張りたいものです。

43

私の職業倫理観

村田 崇

私の会社は、不動産を総合的に取り扱っています。不動産業は、宅建業法・商法・民法を中心に約40以上の法律がある。しかし法律は完璧なものではなく必ずしも現実の社会で起き得るものをカバーしているとは言えないものがあります。そこで求められるものが倫理です。倫理とは法律でカバー仕切れないもの及びそれでは不十分なところを補完するものだと思います。

不動産及び建設業界では、偽装や詐欺事件がまれに起こります。これが大きな社会的事件となることがあります。人をだまし利益を稼ぐだけを目的として会社運営をしている企業(人)がいると言うことです。

企業とは、存在し続けることこそが目的であり、社

会貢献が続けられる訳で利益を上げることはあくまでもその手段でしかないのです。不動産業は人の人生を変えかねない程の大きな財産を扱うわけで、法律を越えた倫理観を持つことが重要な事だと思っています。

職業を通じつづく思うことは、私は人に活(生)かされていると言うことです。だからこそ自分は人(お客様・友人)のために何ができるかを絶えず考え、人の為に最大限の努力をすることを自分自信に言い聞かせています。

私の職業倫理は、お客様を活かし発展して頂くため、法律を遵守し、さらに高い倫理観と仕事への誇りを持ち、高度な知識を合わせ持った人(社員)を育てあげることが社会貢献できる会社の力となり、又倫理の実践を遂行することが、職業奉仕であると確信している。

■会社紹介

社名：〒252-0243 神奈川県相模原市中央区上溝2-10-30

有限会社ムラタカンパニー 代表取締役 村田 崇

TEL.042-763-3953 FAX.042-760-0737

設立：昭和36年3月

現業開始：平成4年5月

業種：総合不動産(資産コンサルタント、分譲住宅企画・販売、不動産売買・仲介、工場・倉庫・アパマン斡旋管理、駐車場企画斡旋管理、一般建築請負)

経営理念：地域社会の発展に貢献するため、不動産を経営資源・生活資源と捉え、誠意ある対応と創造力で、明日の豊かさを求め続けることを信とする。

社是：

1. 地域社会の発展の為、明るい心・前向きな姿勢・強い信念を持ち積極的に行動する。
2. 安んじて事を託される企業たれ。
3. 信念と誠の実践

械部分の設計開発をし、その後、生産技術、品質管理に配属され、製品が出荷できるまでの一連の流れを判ったつもりでした。技術系にいたときは営業が取引先に良いことを言って、その結果、技術に皺寄せが来ると思っていました。しかし、企業は製品を売って、アフターサービスまでしなければなりません。設計にあたっては各部分の応力を計算し安全率をかけて設計値を決定します。安全率は、その用途によって変わってきますが、安全率を上げればコストが上がります。しかし、不要なまでの安全率は重量増や大きさ他の部品との兼ね合い等で問題があります。結局、中庸、経験値ということになります。いろいろな社会問題が起きていますが、この値が利益に振られすぎている様に思います。もちろん、企業ですから利益を追求しなければなりません。これが職業倫理ということかなと思います。

先日、ある講習会に参加しました。そこに雑誌記者が来ていて、講習の様を写真に撮っていましたが講習が終わってから、こういうアングルで撮りたいということでその講習の部分をもう一度行ってもらい撮影していました。さて、講習の様を取材することであれば講習は終わっていますが、でも、違うことをしているわけではありません。世の中に起きていることすべてを報道するのは無理です。ですから、各社色々な基準で選択するのが職業倫理だと思います。しかし、昨今、取上げ方を一方向からだけ見たり、針小棒大にしたり、どうかと思う報道があるように思いますが、私の年齢のせいでしょうか？

■会社紹介

現在の仕事は、私の創業したエムアンドケイと父の創業した守屋製作所を運営しています。エムアンドケイは、近所にディスカウントストアが出店することになり、駐車場の管理とその駐車場の中でファーストフードの店(ソフトクリーム、ホットドック、フライドポテト、ソフトドリンクなどの販売)を開くということで会社を設立し、現在は不動産の管理をしています。守屋製作所は、40年ダイカスト製品のメーカーとして設計製造をしていましたが、数々の要因が重なり昨年ダイカストをやめ不動産の管理を始めました。

44

私の職業倫理観

守屋 護

小さい頃から機械が好きで新しいおもちゃを買ってもらうと必ず分解していました。今でもいろいろ分解していますが、何となく設計者の考えが判ることもあります。機械科を卒業して秦野の官庁関係の製品製造会社に就職しました。そこでは、開発部門で機

45

私の職業倫理観

矢越孝裕

世の中には様々な業種があります。その中でも衣食住に関連するものは、今も昔も大変重要でかつ、必要不可欠なものです。しかしながら、それらの業種に従事しているのであれば安穩としていられるのかと言うと必ずしもそうではありません。益々業績が向上していく企業もあれば逆にどんどん衰退していく企業もあります。例えば大手家電メーカーは、昔は三種の神器などと言われた白物家電で成功してきました。現在、それらが無くなったわけではありませんが、違う物に取って替わってきています。

人は時代とともに求めるものも変わっていきましますし、世の中も年を追うごとに目まぐるしく変化しています。企業は、5年先、10年先を見据えて世の中や人々のニーズに答えていかないと淘汰されて行く時代です。

では、時代のニーズに合っていればそれで良いのかと言うとそれだけでは十分だとは言えないのが現実です。そのニーズに対応すべく取った行動や言動が倫理観の欠如しているものと早晩その企業も淘汰されていくでしょう。

やはり、今の世の中で大事な事は、スマートな言い方ではありませんが、時流に乗り遅れずに行くか、もっと言えば一歩先に行く位の気持ちでなければなりません。それと同時に企業人たる者は、高い倫理基準をもって臨まなければならないと思います。倫理観の欠如はコンプライアンスの欠如であり、小さな事がやがては取り返しのつかない事になりかねません。

最近実際にあった子ども教育会社の個人情報流出事件など、たった一人の人間の取った行動が会社自体の存続さえも危うくさせています。また、盲目の偽作曲家や、世紀の大発見といわれたSTAP細胞の女性研究者等々・・・数え上げたらきりがありません。

これは言い替えると成熟した日本だからそのような課題を残す事件となるわけですが、諸外国では必

ずしもそうでないのかも知れません。

海外に行くと良く感じるのですが、日本という国はどこよりも綺麗でサービスも良くインフラの整備も十分に満足し得るものです。諸外国へ行くと殆どの国が日本の数十年前の姿を見ているようです。おそらくそのような所は倫理観よりも先に必要なものがあるのでしょうか。数十年前の日本だとそれで良かったのかも知れませんが、経済大国となった今は成熟した先進国でもあり、それこそ高い倫理基準を持ち合わせないとならないと痛感します。私自身ロータリー入会後に初めて職業奉仕という言葉聞き漠然としておりましたが、今後は素晴らしい先輩方から多くのものを学ばせて頂きたいと思います。そして人間としても一企業人としても更に成長していきたいと思います。

46

私の職業倫理観

山本正司

人生の目的の一つが職業を通じて社会に奉仕することであると言っても過言ではない。自分にあった職業にめぐり合える喜びは何ものにも変えがたい。

昔の人は未就学児童に大きくなったら何になるの!とよく聞いたものです。大概是解からないと答えるでしょうが、中には野球選手になると言う方も多くいたようです。私の場合は親が株式相場をやっていた関係か、あるいは当時の世相を反映してか定かではないが、台湾銀行の支店長になると言っていました。私自身をはっきりと記憶にある。さすが物心ついた小学校時代は言ったことはない。小学校の作文では八百屋になりたいと書いたことを覚えています。いずれにしても将来の職業というものをいつも意識していました。その後中学高校時代は職業を何にするか一番悩んだ時期でした。当時は空前の受験戦争と言われた頃、虚しい学生生活が続いていた。この当時一番強く思っていたことはサラリーマンだけはなりたくないこの一点だけだった。自分で出きる職業は何かいつも頭の中で考えていました。

大学は職業と関係せず自由に学びたい一心で楽

しい学生生活を送ることができた。周囲は大学紛争で騒然としていましたが、一人読書と勉強と部活に明け暮れた。この頃現在の職業を知り、この道だと決意した。

近時の司法改革等による法改正により、私達の職業はより厳しく高度の注意義務を要請されるようになった。常に適正でかつ高度の倫理観を維持する努力を怠らないことは言うまでもない。それには日々研鑽を積み社会の要請に応え相手の立場にたって考え、よく聞いた上正しく判断することが求められる。幸いロータリーはいろいろな職業人の集まりであり参考となる考えを聞く機会に恵まれている。私は人生の後半部分、己の職業を通して奉仕し、自由・平等・友愛の理念によって形成されるべき市民社会の維持のために奉仕する市民型法律家をめざしていきたい。

47

私の職業倫理観

李 爽

私は、お婆さんが日本人で日系3世です、中国の天津で生まれ育ちました。平成2年に日本に来て、中華料理店を経営しております。

来日当初、日本語学校に通いながら親族が経営する段ボール箱製造メーカーに勤めました。そこで学んだ知識や経営者たる者の社会的な責任の重さを目の当りにし、その後私が起業する会社の運営に絶大な影響を与えたことは、言うまでもありません。

また、21歳でRACに入会し、「4つのテスト」をはじめとして様々なロータリー精神に感銘を受け、私こそ、ロータリー精神の基で育てられた経営者であり、晴れてロータリアンに成長した典型的な事例の1人ではないでしょうか？

日本在住中国出身者の人脈を生かし、中国レストランを開業し15年、中華料理は華麗なプロの中華鍋さばきや中華ソースの旨みと満点なスタミナが日本人に好まれて日常の食卓の定番となりました。近年、日本食品企業は中華素材部門で大活躍し、一

流の中華料理は日本の食材なしではならないとの存在となりました。繊細な日本人の手によって中華料理を世界への日も近いです。

しかし、日本でもここ数年、食の安全ということが脅かされるニュースが流れ、異物や虫の混入、産地偽造、消費期限の改ざんなどネット社会によってより早く、より広く情報が行きかい不安をあおっている状況があります。中国でも食の衛生問題はいくつもとりざたされており、中国産を敬遠する消費者も少なくない現状です。

そんな中、私は、お客様に一番身近な「食」を演出しています。私の使命は、お客様ひとりひとりの満足にあります。

私の考えるお客様へのおもてなしは、

- *自由な発想で料理を創作してお客様に驚きを与え、
- *責任ある仕事をしてお客様に安心を与え、
- *心のこもった接客をしてお客様に贅沢を与える。

自由 Liberty、責任、Liability、贅沢 Luxury

→この3つの「L」が社名のスリーエル

これが、私の信じる企業理念であります。

そして、私が掲げる経営方針は、大きくわけて5つあります。

- ①本場中国の歴史ある中華料理と日本の技術の融合
- ②更なる品質とサービスの向上
- ③食の安心・安全と適正な価格
- ④共に働く人の幸せの実現・継続
- ⑤欧州・世界へ向けて広く発信できるように成長をめざす

「中国料理」は、日本でアレンジされ独特な風味に変化し、ある意味日本特有ジャンルの「中華料理」として生まれ変わりました。私たちは、近年、中国の経済発展による料理革新を取り入れながら、さらに「中華料理」に磨きをかけ、ラーメン文化のように世界へ向け発信していきたいと思ひます。

物故会員

48

私の職業倫理観

大野隆雄

私の職業観として、企業経営はこうあるべきだという定義は無いと思います。

派手にやっても成功している人、地味に堅実にやっても失敗している人、さまざまであると思う。職業奉仕とはまず地域社会に貢献すること、地道に利益をあげて企業を継続させることと理解しています。世の中、顧客の要求している仕事を確実に実行しそれを提供する、その仕事を従業員がすることにより報酬を分配できることで、既に世の中に貢献しています、さらに利益を上げることで税金を納税しこれも世のために尽くしていることではないでしょうか。しかし一時的に大儲けをしてもすぐに衰退・倒産したのでは、それは本来の企業ではないと思います。

継続しつづける企業とは何なのかどうすればよいのかこれといった結論は無いと思いますが、今置かれている状況の中で能力は人それぞれ、要するにその人の能力に応じ情熱を持ちつづけること。では一生懸命仕事をしてその熱意だけで企業は継続させていけるのであろうか問題です。重要なポイントは重大な時の判断力にあると思います。ここぞの判断が誤った時の軌道修正は容易ではありません。その判断力とは今まで経験してきたいろいろな知識の中で正しいものの考え方見方ができるかどうかで、まだまだ勉強しなければなりません。

父親の会社を継承し、兄弟で35年やってこれたのは重大なポイントでの判断間違いが無かったこと、多少の判断間違いがあってもがむしゃらな情熱があったからそれを乗り越えられてきたと思います。まだ私も56歳自分のやってきたことを評価できる時期ではありません、まだまだやらなければならない。

では、今の会社の現状の管理状況についての問題点について述べたいと思います。当社は、主に電気設備工事業、不動産売買の業務を中心とした会社で、工事部門では官庁、民間、在日米軍の設備関

連工事の受注・施工をしております。特に在日米軍関係の仕事では、電気工事だけではなく上下水道工事、土木工事、建築関連保守工事、特種設備工事(監視カメラ、光ファイバー、バリアゲート、集中監視システム、岸壁衝撃防止材取付等)も施工しております。昭和20年創業、資本金3000万円、年商8億～12億(金額差は年度毎不動産売買の有無)です。

当社施工部門においては、担当者を決め、工程管理、施工管理、品質管理、財務管理、(購買を含む実行予算書の策定)をその責任者が自ら行い目標範囲以内で不具合が発生しないと確認できれば承諾しその責任の元に施工体制が実行される、いわば放任的部分が好結果に発展していると思われる。しかしその弊害として上げられる問題点として、現場だけ重視、自分でやっている部分だけ責任感を持ちその部分だけで判断してしまう視野の狭い傾向が生じてしまうことが問題点として上げられる。営業は受注を重視し、資金回収、現場の在庫までには関心はない、現場も同様、分業化は効率を向上させ組織を活性化させる反面、問題が発生すると責任転嫁に終始し始めたら逆効果、利益中心か仕事に余裕をもっていか相反する、絶えず会社の共通目標を認識してもらうことが一番大切なことである。

49

私の職業倫理観

福本俊雄

「雑感」

会社には会社の事業年度があり、顧問先はそれぞれ自由に事業の終期(決算期)を定めており、これがほぼ年12回にわたっており、中でもずばぬけて多いのは年度変わりである3月決算である。当方とすれば各社の決算についての相談は年中無休の体で対応することになる。相談の内容も、早いうちに話してもらっておれば何とか知恵を絞れたであろうことが多い。

このようなことから月に一度は顧問先を訪問して

情報を収集すると共に、十分な人間関係を作っておくよう配慮することに全職員努めているところです。

昨年5月1日がんじがらめの商法から国際的経済社会を見据えた法体系としての会社法が創設され、株主や株主総会の権限を広く認めた内部自治の拡大が図られました。

会社は、物的会社としての株式会社と人的会社としての持株会社に大別されました。株式会社においては、所有と経営が分離され、社員でなく経営の専門家である取締役等に経営が委ねられているのに対し、持株会社においては社員が各自経営権を持ちます。

また、社員の責任に着目すると、合名会社員は社員全員が会社債権者に対して直接無限責任を負う無限責任社員であり、合同会社と株式会社は全員が有限責任社員となりました。

この結果従来の有限会社は作れないことになり、有限会社は株式会社となることになりました。

話をもとに戻しましょう。

法律は、経済社会の在り様によって変わってゆくものでありますが、事業を進めてゆくことにおいてはその在り様は不変であると思います。

数十人編成の交響楽団を考えてみよう。音楽家がそれぞれ異なった楽器を持って共に演奏できるのは、全員が同じ楽譜を持っているからであり、自分がいつ何を演奏すべきかを楽譜が教えてくれます。指揮者に対してもそれぞれの奏者に何をいつ期待すべきかを楽譜が教えてくれる。この情報の在り様が会社を変えていくことになるのではないだろうか。

我々は会社の在り方について考えてみると、「本当にその構想を信頼してよいのだろうか」「いや個人的に関わり合いたいだけなのか」「そのような仕事に取り組みたいと心から思っているのだろうか」「本当にそのような事業を手がけたいのか」と思い悩むが、未来に纏わる構想に絶対確実は存在しないと云わざるを得ない。

成功の可能性は必要だが、等しく失敗の可能性もある。会社の明日をどうすれば良いかと考えるとき、不確実なこともリスクも当然なこととして考えておかない構想は、未来を作るための実用的構想とは云えな

いのではないだろうか。

経営者は、そのためには事実を徹底的に分析しなければならないだろう。そこで経営者に求められるのは知識と洞察ではなく、意思決定と、実行である。

私が何故このようなことを書くかと言いますと、顧問先から相談を持ちかけられてそれに的確な回答をするのが仕事である筈にもかかわらず情けない程無力感に襲われることが多い。

勿論、それを他人事として考えているのではなく、吾が事として考えているのであるが故である。

もう一度オーケストラの話を引き出して考えてみよう。自分のパートは誰も自分に替わって演奏してくれるものではない。何十人のメンバーが居てもどうしようもないことなのである。

私は或る時、二代目社長から前社長に当たる母に破産宣告をしてもらい、負債をきれいにしてしまいたい、という相談事を受けた。私は腹立ち紛れに「社長、あなたは父親の築いた会社の何を変えたか」と聞いたところ、「親父の会社を立派に守ってきたつもりだ、社会状況が変り過ぎただけだ」と云った。私は云った。「社会状況が変るのは当然のことだ、どうしてそれを乗り切ってこられなかったのか」

そう云って彼と議論して一年も経ったであろうか。そのとき逢った彼の手は荒々しくあれ、社員よりも汚れた作業服を着て、面構えも遅くなって私の前に現れた。彼はオーケストラの指揮者として成功したのである。こうなるまで吾が事業所の担当者が育ててくれたのだと感じ、極めて晴れやかな幸福感を味わったものであった。

「人間の能力は、単一作業の効率を最大化するのではなく、さまざまな作業を無限に組み合わせ、これらを統合することにある。」また、「自分と未来は変えられる」

これは亡くなったアメリカの日本通経済学者P.F.ドラッカーの言った言葉である。

退会会員

私の職業倫理観

50

浅沼菜穂美

東京オリンピックの1年前より父が牧場経営を始め、昭和40年には各自治体に納入業務を主体とする株式会社に転換し、動物が好きという事もあり、乗馬クラブを同時に立ち上げ、私が大学を卒業とともに父から乗馬部署を任せられ、経営のいろはもわからぬままスタートしました。

自分の中では、裕福なお嬢様だと思っていたのですが、ふたを開けてみると乗馬部署は町田から現在の相模原への移転という事により、お客様の移動や様々な施設投資などで資金的には非常に厳しい状態で従業員の給料を払うのに必死な日々が続き、何度も挫折しそうになりましたが、なかば意地で『石の上にも三年』という諺に倣い辛抱しました。努力の甲斐もあり数年後には軌道に乗り安定して現在に至っております。その厳しいときを辛抱出来たのも馬という生き物に癒された面があったからだと思います。

現代、一般の方にとって馬と言うとなかなか触れ合う機会がないと思いますが、老若男女どなたでも出来るスポーツであり、ホースセラピーという言葉もある様に『馬に癒される』ということを少しでもたくさんの方々に体験していただきたいと思っております。

また、昨今『格差社会』という言葉が巷でよく耳にしますが、やはり乗馬の世界でも競技会で良い成績を修めるため、高いお金をかけて海外から良い馬を買ってくる傾向があります。つまり成績イコール経済力という図式になりつつあります。そのような中、私は経済的にそれほど余裕のない方、中でも特に年々人数の減っている子供達、また素質もあって熱心に頑張っている子供が親の経済力の差で良い成績が残せないという悲しい事がない様にサポートしていき、今、希薄になってきている『人との触れ合い』『動物との触れ合い』『努力すれば報われる』という事を感じてもらい成長していく中で一役担うことが私の理想とするところです。

51

私の職業倫理観

石井中和

私の現在の仕事はアパート、マンション、貸倉庫、貸店舗など不動産貸付業をしています。アパートやマンションを貸していると、様々な問題にぶつかることが少なくありません。

隣人、周辺環境の問題をめぐっては、騒音、漏水、ペット、共用部分の使用、日照、景観、汚臭などの様々な問題があります。日常生活のほんの些細なことから発展して、大きなトラブルに発展しかねない問題も数多くあります。アパート等の賃貸借は、一戸建の場合と違って、壁一つを隔てての隣家ですから、生活上の配慮が必要です。そのための心得として、何かトラブルが発生したら迅速に行動し、一組ずつていねいに対応するよう心がけています。一時代前でしたら家賃さえ取ればそれでいいという時代がありましたが、今では、入居者であるお客様に快適な住環境を提供していかなければならなくなってきました。

家主と借主の関係は、共存共栄の上に成りたっています。生活者に、快適な生活の場の拠点として、安心、安全を保障していくことが、経営者の使命として社会的責任を果たしたいと、考えています。

■会社紹介

中和興産株式会社 代表取締役 石井中和

会社の設立は、昭和43年8月26日。

事業内容は、貸家業及び貸室業、倉庫業、不動産の管理、仲介、売買、建設、保険です。

ワンルームから貸倉庫まで、地域と密着した活動で、お客様に快適住環境を提供しています。

関連会社：石井倉庫株式会社、有限会社顕丑

52

私の職業倫理観

奥村光弘

今までは、いそがしさと子育てに追われ、自分の生業についてゆっくりと考えたことは少なかったが、最近の経営環境の変化にはついて行けず、まわりを

見回せばシャッターの閉まった店が多くなり、そのうち自分の店もその様になるのは確実な状況のように感じるようになりました。この様な状況から脱する為には経営変換等をすればよいのだが、そこで考え込んでしまいました。

今までの場所ではいくら変えても無理なのは充分わかっている、周りは年寄りを中心の古い住宅地、しかも今まであったバス路線が無くなり人通りもなく、反対にスナックなど夜の商売が増えたのである。それでは場所を

換えてと考えては見ましたがどうしてもそのイメージが湧かないのです。『しょうがない、それでは今までの様にのんびりと働けなくなるまでやるか……』ということになり、今に至っています。

現状は以上のようなことなのですが、ここで内田委員長より『私の職業倫理観』のレポートを提出せよとのことですので、私自身の今までと、これからを書いてみようと思います。

今の店は、父親から受け継いだもので、父親の考えは充分わかっての二代目です。父親のくちぐせは『騙されても大丈夫』『1円を笑えば1円に泣く』『1円でも足りなければ汽車に乗れない』『相手の身になって考えろ』などいくつかあります、そしてその言葉と一緒に育った私はそれが染みこんでいるようで、私の考えの芯はここにあるようです。

金儲けいわゆる利益の追求は、商人としては当然のことで、その当然のことは他の仕事をしている人にも同じように通ずることです。

額に汗して頑張っただけここまで来ました、頑張った分だけ利益を世間から頂いたと思っています、そしてこれからも私なりに頑張っていくのだろう……。

最近気になる出来事がある、それは『振り込め詐欺』などの他人を騙して労せず大きな利益を手に入れることがはやり、その被害がよく新聞などに報道されている、それもその人の仕事といえばそうなのだが、だまして儲けるのはその倫理は皆無といわざるをえない。

その人ごとにその倫理観には違いがあるのだから、ライブドアのホリエモンや村上ファンドの村上氏・いろいろ問題を起こした県知事の倫理を知りたいものである。

私は工学部建築学科卒であり、卒業後は5年間位建築設計事務所に勤めておりました。この間に一級建築士、土地家屋調査士、宅地建物取扱主任者の国家試験にも合格し将来は建築設計事務所を主宰出来たらイイナアと考えておりました。いわゆる“良い設計・施工”が施された建築が完成するとオーナーは満足し、素直に喜んでいただいたことを思い出します。そんなオーナーの笑顔を見るとその仕事の苦労も消し飛んだという記憶があります。どんな仕事をしていても同じだと思うのですが、ただ事務的に片付けるだけではなく、最終的にその仕事の対価として報酬+“お客様の笑顔”が頂ければ、こんなにうれしいことは御座居ません。その後理由あって開発設計・測量・土地家屋調査士業を自分の実家を助ける形で行いました。そして今から17年程前に独立して今の会社を経営しております。今の仕事は住宅・住宅用地分譲業が主体でありまして、簡単に申しますと、100坪の土地を9000万円の値段で販売してもなかなか売れません。それ我々が買い取り、3分割して1宅地3000万円(実際は経費や利益を含めるのでもう少し高くなる)で33坪の土地を3人の各々のオーナーに買っていただく。3000万円位ですと価格的にかなり一般の人にとって買い易くなる。普通のサラリーマンの方々にとって“一戸建住宅購入”は人生に於いての一大イベントであり、一生忘れない思い出になるはずです。そんなシーンに毎回係わらせていただけるわけですから、襟を正し誠実に、そして共に祝福する気持ちを大切に……と思う次第であります。結論を申し上げますと、仕事を始めてから今日に至るまで、月並みで短い言葉ですが先に述べました“報酬”+“お客様の笑顔”が私のモットーであり、私の職業倫理観の根幹を成す重要なファクターであるということは間違いありません。尚、2年前より土地家屋調査士業(測量)を再びスタートさせました。皆様、よろしく願い申し上げます。(アレ?宣伝ニナッチャッタ?)

54

私の職業倫理観

鈴木千夏子

弁護士としての経歴を簡単にご紹介します。平成5年4月、東京の京橋の法律事務所に就職し、所長弁護士や先輩弁護士の下で勤務弁護士として働いてきました。平成10年に弁護士仲間2名とで御茶ノ水に法律事務所を設立しました。共同経営の法律事務所では、相談し合える仲間がいることや経費を分担できるなどの安心感がありましたが、一人で自由に法律事務所を運営したくなり、平成13年から相模原で開業し、今日に至っています。

弁護士の仕事というのは、誰がやっても同じ仕事になるということは滅多にありません。持ち込まれる案件は現代の複雑な社会を反映して、紛争が錯綜・混乱していることが多く、それを解決する弁護士も、ものの考え方、方針の立て方、工夫の仕方は様々です。同じ事件でも、弁護士が10人いれば10通りの処理の仕方があるといっても過言ではありません。報酬の決め方も弁護士によって高かったり安かったりもします。一度弁護士になると、基本的には誰かの監督に服することもなく、自由に仕事をする事ができるため、各人が独自の手法を編み出し、様々なスタイルの弁護士が育っていくのです。見方を変えれば、知らず知らずに独善的で非常識な弁護士になっている、というのが怖いところです。

私は、勤務弁護士時代や共同経営時代を通じて様々な弁護士と一緒に仕事をしてきました。彼らが今の私の弁護士としてのモデルになっていると思います。まっとうな弁護士でいるよう、彼らの良いところだけをピックアップして自分にとり入れるように心がけています。例えばA弁護士の仕事の早いところや依頼者に丁寧に説明するところ、B弁護士の報酬を設定の仕方、品位をもったやり方を通すところ、C弁護士の圧倒的な正義感を、といった具体です。

仕事をする中で、悩み、壁にぶつかることがあります。そういう場合、A弁護士だったらどうしただろうか、B弁護士だったら・・・と考え、答えを出して進むこともあります。しかしそのやり方では答えがでない

ときもあります。特に依頼者が大変気の毒な場合や、相手方が悪質で許せない場合など、私個人の思い入れが強くなってしまい冷静さを失い、パーフェクトな結果と経過を求めて躍起になってしまうときです。

そういうとき、私はアメリカの神学者R. ニーバーの祈りの言葉、

「神よ、変えられないものを受け入れる心の静けさと、変えられるものを変える勇気と、そしてその両者を見分ける英知を、我に与えたまえ」を思い出すようにします。

事件は私が知らないところで起きています。そのときに依頼者にもそれなりの落ち度があったりし、相手方にもそれなりの道理があったりします。そうした事実はいくら私がかかっても変えることは出来ません。捻じ曲げたりしたら大変なことになります。変えられないことはそのまま受け止め、現にある材料を冷静に見て、私の出来る最大限の努力をする、それに尽きるのです。そのことに気づいたときフッと苦しみから解放されるのです。

55

私の職業倫理観

関永光彦

本ロータリークラブ会員宮崎氏によって、倫理の問題を討議しているとき、マックス・ウェーバー著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』が言及されたことがありました。プロテスタンティズムとはキリスト教新教のことです。新教は、16世紀、ドイツのマルチン・ルッターによって唱導された、聖書のみをこの教えの典拠とする教派です。それまでの、聖書の他に、伝統を重んじた、カトリック(旧教)とは、主義を異にしています。私はその新教に属しているキリスト者です。

したがって、倫理のことを考えるとき、どうしても聖書の教えを抜きに、考えることはできません。聖書は人の前よりは、神の前に義しくあることを要求します。イエスの言われた言葉として、第一のいましめは、「心をつくし、精神をつくし、思いをつくして、主なるあな

たの神を愛せよ。」第二のいましめとして、「自分を愛するようにあなたの隣人を愛せよ。」を質問者に答えました。これは、神と、他人に対しての一番心すべきこととしての教えです。

次に「モーゼの十戒」のいくつかを挙げます。これは紀元前1500年頃の記録で、ハムラビ法典とともに、後の法律の基本をなすものです。「あなたは殺してはならない。」「あなたは姦淫してはならない。」「あなたは盗んではならない。」「あなたは隣人について、偽証してはならない。」これらの人間普通の倫理が、守られていないのが、われわれの周囲に日々伝えられる状況ではないでしょうか。

私は職業柄、学生が試験において、不正行為をするなど、繰り返し注意しますが、残念ながら、それが守られません。人の目を逃げればそれでよしとする風潮は、社会に出てからも、必ず現れるのです。日々ニュースで伝えられる、詐欺ごまかしのいかに多いことか。学校教育では律することのできない倫理観は、やはり宗教的な心情があって生まれるのだと思います。英国の大学教育で、大切にしている目標は、悪い人を、世に送り出さないことだと、ある人が書いています。たったこれだけのことができないのが、人間の現状です。

冒頭ウェーバーの著書も、「世俗内禁欲」がプロテスタンティズムに由来することを説いています。それが資本主義を発達させたのだと。一考に値する大切な倫理観であると思います。

56

私の職業倫理観

饒田博明

私たち株式会社饒田ではお客様のお役に立ちたい、という考えのもと、飲食店様をお得意様とする業務用卸部門と店頭小売のリカーランド トップ部門を2つの柱として酒販事業を展開してまいりました。

酒販業界をとりまく様々な状況の中、おかげさまでもちまして、毎年、前年実績を上回る伸長をつづけております。97年3月には本社ビル完成とともに経理

業務・営業部門の集約化を果たしました。創立25周年を過ぎた弊社では商品管理・配送部門の拡充、仕入部門の強化(エヌジーティー株式会社の設立)等、5年10年先を見据え一層業務の効率アップをはかり、各分野の業務改革に取り組んでおります。創業期の新たなステージに立とうとしている今、全社、全部門、全社員が気持ちを新たに、豊かで魅力ある商品とサービスを提供していきたいと考えております。

酒販事業のみならず食というステージの上で、お客様に満足いただけますよう自らのレベルアップをはかり、積極的な営業活動をしてまいります。

■会社紹介

経営理念

株式会社饒田は、最高の品質と心のこもった行動を通じて、地域社会のお客様の満足を追及し、健康で豊かな社会の実現に貢献します。

使命

株式会社饒田は従業員一人一人の物心両面の幸福をもたらすと同時に社会と調和し、お客様、取引先、株主そして社会に貢献することを基本使命とします。

株式会社饒田は、地域社会の人々のくらしをよりよい意義あるものとするために、時代の求める新しい価値の創造に誇りを持って取り組みます。

経営方針

①お客様の満足を大切にす経営

企業活動の最大の目的は顧客満足にあります。

お客様のニーズ、要求に誠心誠意応え、食という分野で酒類を軸に豊富な種類の品々をリーズナブルな価格で提供することに努めます。

②新たな市場を創造する経営

マーケット、品質、サービスにおいて地域でのリーディングポジションを担う強い事業を育てます。

③公正で透明感のある企業倫理

健全で公正な企業倫理を持つ企業活動の実践を通じ、地域社会から信頼される企業を目指します。

④バイタリティとスピードのある経営

高い専門能力と企業家精神を備えた逞しい人材によりスピーディーに意思決定し、果敢に行動します。

⑤継続的で質の高い成長

経営資源を有効活用し、継続的で質の高い成長を通じて、お客様、取引先、株主、社員等皆様の期待に応えるため、効率的な経営を目指します。

私の職業倫理観

57

平井良和

ここ数年、企業の不祥事が数多く新聞の紙面を賑わせ、コンプライアンスが問われております。コンプライアンスは、日本語にすると「法令遵守」ということですが、単に法律を守る事ではなく企業倫理を尊重し、企業の社会的責任を果たす事をも含めて使われていると思われれます。ロータリーの綱領 第2に、『企業および専門職務の道德水準を高めること。あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること。そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること。』とあります。この職業奉仕理念の実践に努めることが、ロータリーたる所以でしょう。

建設業では、現場の安全を守る、が重要となってきます。つい、うっかり、では済まされません。「労働安全衛生法」という法律に違反することなく、元請、協力業者ともに、安全教育や安全衛生対策の実施をして、安全対策の基本を怠らず、現場から危険要素を取り除く努力をしていくことが必要です。

注意しなければいけないのは「現場の催しでのお神酒もお酒です」地鎮祭や上棟式などの現場で行われる儀式の際に出されるお神酒も立派なお酒です。飲酒運転にならないように配慮が必要です。飲酒運転は故意による犯罪です。絶対にやってはいけないことです。

コンプライアンス「法令遵守」当たり前の事を、当たり前にする。基本に忠実に、安全には安全を。全て簡単なことです。しっかり実践して行こうと思いません。

私の職業倫理観

58

安田正年

長いサラリーマン人生を終え、少しはのんびりと今後の独立した時及びその他の事も含めて色々と考えていましたが、あまり時間をかけても早期退職をした意味がないので即、会社設立の準備に取り掛かったのは会社を辞めて半年後のことでした。

ところで独立してまず感じた事は地域社会にどう、とけ込むべきか、今まで自宅と会社の往復だけで町内会の方々との交流、行事等にもほとんど参加せずどう接していいか全く分からない現実に直面している折にロータリーの話が舞い込んできました。異業種の方々との交流と情報交換をすることにより地域の現状把握との理由で3ヶ月程考えた末入会することに致しました。

事業を始めて2年程経ちますがまず初めに感じたのは地域密着によるビジネス展開が非常に困難で、この件については多少時間がかかると思っていますので中長期的に考えています。

最近興味をもっているのが市場流通関連の事業で、常に世の中の経済動向に敏感に反応する能力が要求される分野です。

業務エリアとして全国展開ですが主として首都圏全域を注力、協力会社150社、事業内容は市場調査、出店地の選定・決定、経営シュミレーションの作成、資金調達、設計・施行関連広告・宣伝、その他、一連の作業を法人又はオーナー様に満足のいく提案・立案をする業務です。その延長線上に自分の好きな商業建築にも視野に入れ、複合的な物づくりも考えております。

次に、会社の社会的責任(理念)として

- ①自社の強みを最大限生かした事業の継続的発展。
- ②顧客に住宅・土地の情報提供・取得等を通して満足度を高め感動を与えること。
- ③地域社会のみならず幅広く社会的な活動を通じて公共へ貢献することに努める。

以上の事を踏まえこれから我社が継続的存続する

為にはいろいろな事に遭遇した経験を積み重ね、諸先輩の方々の知恵を学び、そして何事にも感謝の気持ちを忘れず等々を念頭におき、地域社会への奉仕に務めたいと思います。

59

私の職業倫理観

谷田貝勝次

私が、宝飾品の業界に入ったのは1990年初め。ちょうど日本のバブルがはじけ、経済がピークアウトしたときでした。薬剤師の業界から方向転換で、最初はまさに宇宙空間をワープしたような感じでした。しかし宝石鑑定士の資格を取得するために、勉強する内に扱う宝石も、今まで扱ってきた医薬品もみな同じ化合物であることが解り、少し接点を見つけた気になりました。例えばダイヤモンドは炭素で出来ています。つまり炭や鉛筆の芯に使われる石墨などと同じ成分です。赤く美しいルビーも酸化アルミニウムに微量のクロムが入り作られます。酸化アルミニウムは医薬品にも使われています。

このように取り扱う品物に関する知識は、ほとんど抵抗なく吸収できました。しかしこれらを扱う人間に関しては驚きの連続でした。最初の第一歩を手助けしてくれた人に「この業界では、騙す人と騙される人どちらが悪いかといえば、騙される人が悪くなるのがグローバルスタンダードだと」教えられました。ちなみにこの方、旧財閥系商社の方で私ども宝飾品初心者をもてなされたとおぼろしく、助言だけでなく危うく体験までさせてくれそうになりました。以来この方とはお付き合いが無いのは言わずもがなです。スタートの時点で頼りになるのは、自分の目と商品の相場観(ドルベースでの)だと身にしました。業者の中にはいろいろな人間がいますが、もし自分が割高な石をつかまされれば、間接的に顧客に迷惑をかけてしまいます。常にこのことを頭において仕事をしています。ただ宝飾品はすべアメリカドル建てなので為替の変動で大きく値段が動きます。例えば、1万ドルのダイヤモンドを買うときに1ドルが百円の時と

百五十円の時では、同じ品質のダイヤモンドでも1.5倍の価格差がついてしまいます。また黒真珠のように近年、飛躍的にタヒチでの養殖技術が向上し、価格が暴落しているものもあり五年前に買い求められた方たちは今の価格を知らずいぶん高いものを買ったと思われるでしょう。

このように人間の思惑や為替の変動、時には戦争資金の調達で価格が変動する宝飾品ですが、職業倫理観から逸脱することが無いように自問自答しながら日々を送りたいと思います。

「ロータリー知っ得情報」より抜粋

あるクラブの会報より

私が会員だった頃、皆さんのクラブは新会員を探すのに随分力を入れておられるのには驚きました。私を憶えておられる方がおられるでしょうか？

私は毎週例会に出席していましたが私が例会に出ていることに気づかれた方がいるでしょうか？

いくら私がお友達になろうと努めても、皆さんにはそれぞれに同席して親睦を楽しむ特定の方がおられるようでした。時折、見慣れない方と同席しましたが、誰も私が同席していることに気付かれなかったようです。私は何かの委員として活動できる機会を待っていたのですが、その機会を分かち合って下さる方はありませんでした。

一度、身体の具合が悪くて例会を欠席したことがあります。その理由を尋ねる人はありませんでした。

思うのに、私なんて居ても居なくても良かったようです。私が誰かご存じですか？

私はクラブへ帰って来なかった会員です。

.....

私たちのクラブへ入会された当時のことを憶えておられますか？

最初の例会に出席された時、クラブ会員全員からの歓迎を受けましたか？

その後の例会では如何でしたか？

ロータリーでの親睦は会員の退会を防止する鍵です。新会員も古参会員も、皆、等しく会員同志の親睦があるからこそ、会員として活動に参加し、例会に出席するのです。けれど、クラブの例会における友愛の雰囲気は偶然につくり出されるものではありません。各会員が親睦を深め合う会員としてのつとめを果たして初めて生まれてくるものです。

あなたはどんなロータリアンだと 思われますか？

無銭旅行者は、道端に立って手を挙げ、「済みませんけど、車とガソリンを消費し、車の調子を整え、

保険に加入し、そうしてから同乗させて下さい。しかし、万一、事故に遭って怪我をした場合には、弁償して頂くために訴えますから、よろしくご了承願います。」と言っています。全く一方的な言い分ですが、多くの組織やクラブには、これに似た無銭同乗者が多数存在するのではないのでしょうか。多くの会員は、「あなたは例会に出席し、理事をつとめ、委員として働き、報告書を書き、議題を研究し、とにかくクラブとして、しなければならないことは皆お任せします。でもね、私の気に入らないことが生じたら、遠慮なく苦情を述べ、批判させていただきます。それでも気が済まない場合には、他の団体へ鞍替えさせていただきますので、悪しからず。」と言っているのではないですか？

あなたは、無銭同乗者か運転手のどちらでしょうか？

中国のことわざ

古い中国のことわざに：「話して下さい、忘れるかもしれないませんが…示して下さい、憶えられるかもしれませんが…でも私にも参加させて下されば、きっと理解できると思います。」というのがあるそうです。ロータリーがそうです。入会した時に、新会員へロータリーについて説明しても、それは忘れることがあります。例会でロータリーが何をするのか示して見せても記憶に残らないことがあります新会員は、実際に活動に参加して初めてロータリーが何かを知るのです。新会員が配属された委員会の委員長のリダーシップによって、新会員はロータリーが何かを体得するのです。優れた委員長は、全会員に仕事を委属し、その遂行を見守ります。そうすることによって、初めて、全会員にロータリーの根本精神である「超我の奉仕」を実践させることができるのです。

三権分立のロータリーの原則

ロータリークラブの執行機関は、決定機関の決定に拘束され、決定機関の行うべき決議事項につき、その決議を経ないでした行為はすべて無効である。

即ち、クラブ理事会の決議に基づかないで、会長が勝手にクラブの方針を決定する権限はなく、そのような行為は無効として、会員はそれに拘束されない。クラブの管理主体は理事会であり、会長ではないことを承知すべきである。更に、詳述すれば、

① 決議機関(クラブ意志を決定する機関)

クラブ理事会がこれに当たる。

《クラブ定款第8条第1節》

② 執行機関(クラブ意志を実行する機関)

クラブ役員がこれに当たる。《クラブ細則第3条》

③ 審査機関(決議機関の誤りを正す機関)

クラブ臨時総会がこれに当たる。

《クラブ定款第8条第2節》

足利学校の楷の木

鎌倉、室町時代では、唯一の学校施設といわれる足利学校は、永享11年(1439)上杉憲実の創設によるといわれる。

内容は孔子の教へ儒教を中心として、易学、漢書類、兵法、医学など多方面にわたったといわれ、長く存続したが、江戸時代に入り、藩校や私塾の発展とともに衰退した。

この学校の構内に楷の大樹がそびえている。この樹は足利市と友好都市、中国山東省済寧市の曲阜にある孔子の墓所「孔林」から日本に伝えられた最も古い楷の中の貴重な1株といわれ、「栃木県の天然記念物」に指定されている。

楷の木はまた「儒教の象徴」「学問の木」として、わが国にひろめることによって、孔子への敬慕、儒教思想の普及そして中国との友好のかけ橋になったものと思われる。

この足利学校にゆかりの楷の木の種子を今春、足利ロータリークラブの創立45周年に因んで送付を受けたもので、担当委員長からの依頼で培養し、6株が生育、すでに30～40cmの草丈に生育した。

楷の木はウルシ科に属し、学名 *Pistacia Chinensis* BUNGE 和名「ランシンボク」のほか、「ナンバンハゼノキ」または「トネリバハゼノキ」とも呼ばれる。

原産は中国、フィリピンなど。

楷の木は雄雌異株で成長力は強く、樹高25mもの巨木となり、樹令数百年にも達するといわれる。

このゆかりの木の植栽場所など当クラブで検討いただければ幸いである。－例えば市内の公園やこもればの森など－

ロータリアンと卓話(スピーチ)

ロータリアンにとって、卓話のもつ意義は極めて大きく、クラブ活動に活力を与えるものといえましょう。

ロータリークラブの会員構成がそれぞれの職種の代表者でもあり、情報の多面性と共に幅広い交流が培われて、親睦活動に潤いを与えているものと思われる。

卓話についても、このような構成メンバーを反映して、幅広い職種分野にわたり、またそれぞれの職業倫理をも学べることも楽しみの1つといえましょう。

卓話の編成は通常プログラム委員会で準備され、例会時間1時間の中、30分程度を当てているのが実情で、そのウェイトの大きいことが知られ、まさに卓話はクラブ活動に潤いを与え会員の相互理解と親睦を深める大切な役割をもつものといえましょう。

クラブによっては、外部からの講師を重点に経済、社会、奉仕活動、歴史などの学習活動の編成のみられる所もあり、また会員を中心に職業観、経営事情、RC活動、趣味などの編成に重きをおく所もあるなどさまざまです。

いずれにしても卓話を通して、会員の相互理解と親睦などコミュニケーションが深められる大切なプログラムといえましょう。

卓話者の対応はもとより、外部講師に対する感謝の対応ならびに同僚の卓話に敬意をもって静聴することなどロータリアンのマナーといえましょう。

異常気象とエルニーニョ現象

京都で12月に開かれる気候変動枠組み条約第3回締約国会議、いわゆる「COP3」をひかえ、二酸化炭素(CO₂)を含む地球温暖化問題が議論をよんでいます。

これらの問題は地球規模での気候変動をもたらし、人類や動植物の生存に重大な影響を与えることが憂慮されています。

一方、今春から南米ペルー沖で今世紀最大規模といわれるエルニーニョ現象が発生し、世界中で異常気象を誘発していると報じられています。

エルニーニョとはスペイン語で「神の子」という意味で、毎年クリスマス前後に起きることからこの名がついたといわれます。

この現象は太平洋赤道域を東から吹く貿易風が弱まり、インドネシア付近の水温の高い海水(暖水塊)が東進して、中南米沖に達する現象をよんでいます。

東太平洋赤道域で数年に一度異常な水温上昇が一年以上続く大規模な現象を指すことが多く、その影響は、中南米諸国でのハリケーンや干ばつ、東南アジアでの異常気象の影響による雨期到来の遅れ、干ばつ、洪水など様々な災害と被害を生じています。

しかし、この現象をはじめ、気象変動との関係については、不明な点が多く、アメリカ、日本、ペルーなど各国で、人工衛星などを用いて、大気の流れや、海面、海水温の変動などこれらの現象の解明と災害防止にむけて観測強化が計られています。

ロータリアンと「歴史の終わり」

私たちはいま、これまでもまして地球という一つの大きな社会の中で生きています。したがって今日のさまざまな問題に対して、一国だけの偏狭な見解をとることはできません。全人類が直面しているのですから、私たちの物の見方は国際的でなければなりません。

共産主義が、東欧諸国や旧ソ連から姿を消してしまっただけで、政治の世界では、人類は「歴史の終わり」に到達したのではないか、というテーマをめぐって大いに議論が戦わされました。共産主義と資本主義の間での大々的なイデオロギー戦争が集結したのだから、やっと世界全体に平和が到来した、という声が聞こえました。

しかし今も人類は、もっと小さな数多くの問題をめぐって戦っています。これらの問題は、私たちを導いてくれるもっと大きな意味をもつ信念、さらには私たちの生きる目的そのものすらをも見失わせるほどまでに、複雑で錯綜しています。そのために、ちょっとした偏見が突然、人類、国家あるいは宗教の原理主

義をめぐっての大きな争いへとエスカレートしているのです。

ロータリーは、このような世界の不寛容な精神と見事対象をなしています。

ロータリーの理想は平和と友情と信頼の基礎となっていますし、ロータリーの基本的な考え方は、自分たちのさまざまな違いこそ長所である、という見解をもっている多様な人たちをまとめあげることに基づいております。ロータリアンはそれぞれのユニークな才能を活用して互いを補い合い、独りではできないこと一だれにとってもいい、大きなことを達成しています。ロータリアンは政府が背負っている政治的な重荷や宗教の教理に縛られていないからです。ロータリアンには自分たちの信念に基づいて行動する自由があります。また、人類は共通の未来を分かち合わなければならないということがわかっています。

「歴史の終わり」にあたって、ロータリアンは新しい章を書かなければならない、と私は考えます。ロータリーを通して強い国際的なつながりを築くための新たな情熱にあふれた次の章をロータリアンが書いてくれるのを見たいと、私は思っています。

ロバート R. パース(1993-'94年度 RI会長) -抜粋-

インターアクト・ローターアクト・ライラ

ロータリーでは青少年の健全育成のためにいくつかのプログラムを行っております。青少年が責任ある市民としてあらゆる可能性を開花させてゆくその手助けをする、という目標が込められています。

インターアクト・クラブ(Interact Clubs)

インターアクト・クラブは、奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で相共に活動する機会を青少年に与えるために結成されます。一つ又は複数のロータリー・クラブによって提唱され、かつ指導監督され、そしてガバナーによって確認された後、RIの証明と承認を得て設立されます。

インターアクト・クラブに入会できる者は高校に在学中の学生または年齢14歳から18歳までの若い人です。

ローターアクト・クラブ(Rotaract Clubs)

インターアクトと同様、ロータリー・クラブが直接、

育成への実践を手助けしている青少年活動です。会員の対象としては、18歳から30歳までの就職または就学している青年です。男女の別は問いません。しかし、提唱ロータリー・クラブの近隣地区内に居住または就学、勤務していることが必要です。

ライラ (RYLA)

Rotary Youth Leadership Awards の頭文字をとってRYLAと呼ばれております。ロータリー青少年指導者養成プログラムで地区全体に亘り若い人々とロータリアンを参加させる地区プログラムで若い人々の指導力及び善良な市民としての資質を伸ばす目的で行われます。年に一度地区内の適当な施設において二泊三日程度の宿泊研修セミナー等のプログラムが実施されます。

1923年 ロータリーの始動…

関東大震災

大正12年9月1日の関東大震災に対しRIはいち早く多額の義捐金と心暖まる激励のメッセージを寄せてまいりました。

これは前年の1922年、ロスアンゼルス国際大会で承認されたばかりの「国際奉仕」実践の第1号と評される快挙となったものであります。

また、このときの“ロータリーは1つの家族”という考えはのちに「W.C.S」の理念となりましたが、東京RCは、託された義捐金を滞滞なく焼失した学校や病院等の復興に当て、孤児のための“Rotary Home”建設資金とするなど極めて妥当、適切な配分をされたということでもあります。これはまた、日本における「社会奉仕」活動の記念すべき第1号といえるものでしょう。

東京クラブの会員は、このときに啓発され、それまで月1回程度の集まりで社交クラブ的だった例会を週1回と正規に改め“超私の奉仕”をモットーに活力ある「クラブ奉仕」を展開することにしました。

このように日本のロータリー運動は、列島を揺り動かした関東大震災(M7.9)のエネルギーによって始動したものと考えられるわけでありませぬ。

《生沼バスターガバナーの資料より》

W.C.S=世界社会奉仕(World Community Service)

WCSプログラムは、国際奉仕に属する活動である。

ロータリアンはこのような活動を通じて、人々の生活を改善し、人々のニーズに応えるプロジェクトを実施する。

そして、物質的、技術的、専門的援助を通じて、国際理解と親善を推進する。

なくなって判ったロータリー

—1940年RIから脱退—

1930年から'40年は、日本のロータリーにとって受難の時代と言えましょう。大連RCの初代会長をつとめた松岡洋右氏が外務大臣となり、国際連盟を脱退するなど急速に戦時色を濃くし、英文を用い米国に送金しているロータリーに対する軍部や右翼の弾圧が日増しに強まり、ロータリアンの苦慮は並々ならぬものでした。

この為にロータリーでは、まず文書通信等を和文とし、例会場にはロータリー旗と共に「日の丸」を掲揚して「君が代」を唱うこととしました。またこれに合わせて新しく日本語のロータリーソングを発表し、「奉仕の理想」を合唱しました。

“御国に捧げん我等の生業”は、ロータリアンが皆お国のために尽くしているものであり決して米国の手先でないことをアピールしたものと考えられるのであります。

しかしこのような必死の努力も空しく1940年(昭和15年)遂にRIからの脱退を余儀なくされることになってしまいました。

これからの9年間、水曜クラブ或いは木曜会などと名称を変えながらロータリーの心を守り続けてくれた当時のロータリアン達が、「なくなって判ったロータリーの良さ」を語られる切なさに胸を打たれる思いがいたします。またかつて「もしロータリーが解散することになったとき、果たして地域から“困るから続けてくれ”と頼まれるであろうか」と警告された故・加藤宗兵衛PGの思いを忘れることはできません。

私達はこれから「なくならなくても判るロータリーの良さ」を念頭に、先輩方にお応えして行かなければと思う次第であります。

《生沼バスターガバナーの資料より》

あ と が き

私たちの、相模原グリーンロータリークラブは、'92年9月に認証されてより丸23年を迎えようとしています。多くの人々が出会い、親交と研鑽を重ねて、とても魅力的な仲間が集うクラブに成長して参りました。振り返れば、'06～'07年度に職業奉仕委員会を担当するにあたり、「何かやろうよ」と云う事で、職業奉仕の眼目である職業倫理についてメンバー全員の思うところを聞かせて貰おうという事になり、重たいテーマではありますが、35名の会員に寄稿を頂きその年度内に【私の職業倫理観】を発行する事が出来ました。

それから8年が過ぎ、'14～'15年度の途中では有りますが、24名の若々しく活力が溢れ、クラブの将来を託せる有力な新メンバーを多数迎え、再び 職業奉仕委員長担当を機に【私の職業倫理観・改定版】を発行する事を諮ったところ支持を頂き、新たに(24名)の会員から寄稿を頂きました。冊子の発行に当たり、多々ご協力を頂き有難うございます。

その間に残念ながら2名の方が鬼籍に入りました、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。また、ご都合により退会されたメンバーも多数おいでです。その方々の職業奉仕にかける思いも、私達が会社を経営するうえで大変参考になると思ひ、別途に巻末ではありますが、掲載させて頂いています。

原稿の収集に際しては、事務局の横山さんにはお世話に成りました。また、委員会の皆さんお疲れ様でした。

編集、印刷に際しては有限会社オフィス ジオ様に多大なご協力をいただきました。あらためてお礼を申し上げます。

相模原グリーンロータリークラブ職業奉仕委員会

'14年～'15年度 委員長 内田茂一

「私の職業倫理観」

発行日：2015年6月吉日

発行者：相模原グリーンロータリークラブ

'06年～'07年 '14年～'15年 職業奉仕委員会

事務局：相模原市中央区中央3-7-9 リトルウッズ中央3F

TEL.042-714-1111

印刷所：有限会社オフィス ジオ

相模原市緑区西橋本5-4-30 SIC2-508

TEL.042-779-7570



相模原グリーンロータリークラブ

相模原市中央区中央 3-7-9 リトルウッズ中央3F TEL.042-714-1111

<http://www.greenrotary.jp/>